JULY 17, 1920. NO. 7427

The Japanese American News

大正九年七月十七日（土）第七千四百二十七號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET,
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA.
PHONE PROSPECT 236
ENTERED AT S. F. POST OFFICE
AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES
IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH 1.00
SINGLE COPIES ..... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

日米

人口問題

說明を要す

總體としての米國人の移民問題に對する態度は、共和、民主兩黨が右天下別け目の政戰に臨み表せられたるものと見るを正當とす。約言すれば、東洋移民の今後更に潮來するに反對し、新移民の流入を拒絶する。然れども此態度を以て取扱ふものなりと了解して差支無しと思惟す。今回太平洋沿岸諸州の日本人狀態を、下院の調査委員團が調査したる後、一般の米國人も興味を以て見るべき項目は、其人口及び增率なるべし。何となれば新移民の來航に反對する所以は其增加を欲せざる爲め、人口の增加に對し特別の注意を爲すは極めて合理的のことなればなり。從つて吾人は何故に在米の日本人が數に於て年々增加せるか、出生率が高きかに就き徹底するやうなる說明を調査委員團に與ふるの緊要なるを見る。吾人の假觀する處によれば、在米の日本人は、米國に出生するものを加算せざれば年々減少しつつあり。卽ち米國內に死亡するもの、歸國其他にて出國するものの數を合すれば、入國者の數よりも多きも、年々米國內に出生する子供の數は甚だ多きが故に之を加算して始めて在米日本人數は年々增加する次第なり。能ふべくんば統計表を作製して明確に之を立證するを可とすべし。次は日本人出生率の甚だ高しといふことなるが、此說明も亦極めて容易ならざる可からず。卽ち米國に在る日本人の多數は三十歲より五十歲までの働き盛りの年齡にて、婦人は二十歲乃至四十歲までの間なり。年寄り男も女も極めて少なく、病人、廢人等はどし〳〵歸國せしめ居るが故に、普通の社會狀態とは異り、言はば選り拔きの人々なり。左らば生產力の旺盛なること共に、出生率の人口に比例して高きも當然なり。更に此外に歐米人間には人工的に避姙するの風潮々として流れ居り、二兒制良なるべく、說明を要する人口限り普通に行はれ居れど、日本增加の點以外は別に問題となること無かるべし。吾人は繰返し夫れ在米邦人の妻子渡航に對し反對するが如きものあらば、其は極めて不自然なる主張なるべし。卽ち自然なる主張なるのみならず、却て米國の社會的健實性を僞ふものならざる可かず。過般米國の一名士が淑女憂慮を爲さざらんことを望まざるを稱す。牛世紀努力の跡を顧みれば、吾人は萬難を排して勇往邁進せざる可らざるに非ずや

吾人は既に米國に在る日本人が排日紙の惡戲などに驚き無用の導を主張しつゝあるに非ずや。在留の邦人が排日一派の咆哮や、吾人は繰返し

條約の屬領廻附

天使島婦人實見

英國は更新の日英同盟條約を各屬領に廻附して其承認を求むるに當り、今回の大戰により各屬領の地位は大に引上げられたれば、一年延期して、濠洲、新西蘭土、加奈太何れも相應の注文を持ち出すべし。

附の已むなきに至りたるならん

英國は更新の日英同盟條約を各屬領に廻附して其承認を求むるに當り、今回の大戰により各屬領の地位は大に引上げられたれば、一年延期して、濠洲、新西蘭土、加奈太何れも相應の注文を持ち出すべし。

附の已むなきに至りたるならん

●北京不穩日本警戒

東京發米國國務省着電報に依れば日本政府は北京政府に對し叛旗を揭げたる前國務總理段祺瑞に反抗の命令なり

▲滿州巡閱使北京を占領せん

奉天、吉林、黑龍江三省巡閱使なる張作霖は北京政府に反抗しつゝある安徽派の首領段祺瑞は滿州諸軍を煽動しつゝあり故に滿州軍を以て討伐軍を組織し段祺瑞が捕獲さるゝ迄北京を占領し北京の安寧を保障せんと大總統徐世昌に建議せり

▲北京奉天鐵道材料品移送

北京奉天鐵道の材料品は滿洲へ移送せられたり北京南方井陘の地點にて衝突中の政府軍と安福派軍との國民を以て內亂の苦痛を免かれしめんが爲めに各所屬に復歸すべく忠告せる大總統徐世昌は若し右の忠告に從ふならば大赦を行はんと聲明せり

●日英同盟問題と英植民地

英國政府は日英同盟協約を更新繼續に際して各植民地に更新繼續の可否を問ふに決定したりと（倫敦發）

墨國關係電報（七月十六日聯合通信）

●墨國名將捕縛せる

墨西哥假政府陸相カエス將軍の報告に依れば墨西哥北西方のヌエヴオレオン州首府モントレー と其西方タマリパス州タムピコ港との間に於て革命を起したるゴンサレス將軍は假政府軍に依つて捕縛せられたりゴンサレス將軍は軍法會議に廻されゴンサレス將軍は軍法會議に廻され

▲米墨國境にて匪徒軍活動

墨西哥假政府陸相カエス將軍の報告に依れば墨西哥北西方のヌエヴオレオン州首府モントレー と其西方タマリパス州タムピコ港との間に於て革命を起したるゴンサレス將軍は假政府軍に依つて捕縛せられたりゴンサレス將軍は軍法會議に廻され

▲暴徒アレゴンガ將軍ハ州知事ヲ假大統領ニ任ジ自ラ將軍ニ就任シタリ大統領選擧ニ出馬シテ正式大統領ニ就任シタル將軍ハ現政府ニ反抗シ將軍ハ現政府ニ反抗シ將軍ハ捕縛セラレタリ將軍ハ捕縛セラレ將軍ノ捕縛說ハ事實ナリ

生存權の脅威なり

▽公正なる正邪の審判を求む

眞瀨蘇佛（寄）

最近太田總領事が英字紙上に發表したる「無政府主義者」獰猛なる社會主義者云々」との同胞に對するステートメントは、太田總領事が公正なる理性の下に爲されたるものとは思はれざる虛構の事實と評さざるを得ざるなり。一個の總領事は愚か一國の大統領或は國務大臣の施政上の方針に對してはなるべく一般の國民は自由に之を批評し、其れに對する希望の意志を發表するこそは何等の不都合代に在りてはへ一般國民の可否を問はんが爲めなりこそ

思想の囚はれから全く脫し得ざる現狀に在りてはへ一般國民の可否を問はんが爲めなりこそ

無きのみならず、われが其の國政治に參與せしめ、自由に施政の政策に就いて、然もそれが總領事の職務上の權限を越して加州の法律の下に在る在留民の自治團體に對して不法なる干涉を爲し、其の爲めに其の政策方針を批判され評論されたるが故に、普通の社會狀態とは異り、言はば選り拔きの人々なり。左らば生產力の旺盛なること共に、出生率の人口に比例して高きも當然なり。更に此外に歐米人間には人工的に避姙するの風潮々として流れ居り、二兒制良なるべく、說明を要する人口限り普通に行はれ居れど、日本增加の點以外は別に問題となること無かるべし。吾人は繰返し夫れ在米邦人の妻子渡航に對し反對するが如きものあらば、其は極めて不自然なる主張なるべし。卽ち自然なる主張なるのみならず、却て米國の社會的健實性を僞ふものならざる可かず。過般米國の一名士が淑女憂慮を爲さざらんことを望まざるを稱す。牛世紀努力の跡を顧みれば、吾人は萬難を排して勇往邁進せざる可らざるに非ずや

吾人は既に米國に在る日本人が排日紙の惡戲などに驚き無用の導を主張しつゝあるに非ずや。在留の邦人が排日一派の咆哮や

露國過激派休戰提議拒絕の說

露國過激派休戰提議拒絕の說

●露波休戰風說否定

スパー會議に出席中の英國官憲は曰く「巴里マタン紙は露國過激派政府は聯合列强に提唱ゆ露國と波蘭との休戰提議に應じたりと報じたるが露國過激派政府より未だ正式に回答せず（スパー發）

▲過激派休戰提議拒絕の說

露國過激派休戰提議拒絕の說

●波蘭婦人軍の活動

波蘭義勇婦人軍はヴィルナ地方に於て約八哩の戰線を受持ち露國過激派軍の前進を喰止めつつあり右婦人軍司令官は昨年過激派軍使略の際レムブルグ市を防禦せる今年十六歲のゴイルヲ夫人なり婦人軍は米國赤十字隊供給の食料及び被服を使用しつゝあり（ワルソー發）

▲米人波蘭戰線にて慘死す

露國過激派軍の侵略に對して防戰中の波蘭軍に參加しつつある米國基督教青年會役員一名過激派の銃彈に當りて慘死せり尙は過激派軍は休戰の模樣を示さず猛烈に波蘭軍戰線を攻擊しつつあり（倫敦發）

●獨逸勞働者露國に移住す

約二百名の獨逸金屬細工師と種々なる熟練勞働者とはレヴアル港へ向けスチッチンを出發せり彼等はレヴアルよりモスコーへ赴く筈獨人は近日更に多數の勞働者を續々露國に輸出する筈也

●英米石油戰中止を勸告す

アングロアメリカン石油會社長バウエル氏は曰く英米石油界資本家は小亞細亞及び墨西哥に於て石油權利を爭奪しつゝあるが之れ兩國に不利益なり英國は世界の石油田を占領せんとしつゝあるが之れ面白からぬ現象なり吾人は英國石油業者の和解を希望すと（倫敦發）

獨逸石炭協定署名

スパー會議に於ける獨逸特使は十六日午前石炭供給問題に關して新逆襲案を提出せるが拒絕せられたり聯合列强特使は獨逸の要求中の一案なる石炭を獨逸の市價にて供給することを承認せんと回答せり獨逸特使は十六日午前八時四十五分に石炭協定に署名せり

▲賠償問題は次の會議まで

スパー會議の聯合列强特使は石炭供給問題後に賠償問題を協議する筈なりしが石炭問題にて意外の長時間を費せしを以て一先づ會議を打切り故めて賠償會議を開くことゝせん（スパー發）

●墨國關係電報（七月十六日聯合通信）

●墨國の同盟罷業

墨西哥首府モヂエラクルスとの間の鐵道の工場及び鐵道員の大部分は賃金十割增し及び勞働組合承認との要求を提げてストライキを開始せり尙ほヴエラクルス港埠頭人足もストライキせり（ヴエラクルス發）

●南米大統領放逐

先日革命劇の際首府より驅逐せられたる南ポリヴイア共和國前大統領ヴエルタ氏及び同氏大統領當時の閣員連は國外に放逐せられたりとの電報あり（華府發）

●墨國の同盟罷業

墨西哥首府モヂエラクルスとの間の鐵道の工場及び鐵道員の大部分は賃金十割增し及び勞働組合承認との要求を提げてストライキを開始せり尙ほヴエラクルス港埠頭人足もストライキせり（ヴエラクルス發）

●鐵道事務員罷業

米國鐵道事務員組合長フイッゼラルド氏は來る月曜日市俄古に於て各地事務員代表者二百名と會合し賃金問題を議せば鐵道事務員卅七万五千名は一時間廿仙の割增しを要求すべく若し其要求承認せざればストライキを開始する筈也（市俄古發）

●獨逸佛國に謝罪

獨逸外務次官ハイムハウゼン博士は獨逸人が伯林の佛國大使館上の佛國國旗を破棄せる事件に就き佛國大使館に出頭し謝罪せり（伯林發）

●國債廿三億餘弗

加奈陀大藏省の發表に依れば現在加奈陀國債は廿三億十一万九千餘に達せり（オツタワ發）

●米海軍志願多數

米國海軍省發表の報告に依れば米國海軍水兵志願者の數は退職者數よりも多しと（華府發）

●土耳其宰相有罪

土耳其國民黨最高法院は土耳其講和特使なる宰相ダマッパフエリット將軍及び他の講和使節を共に賣國奴なりとの宣言を受ざるを信ずるものなり。此の推定にして眞なりとせば、吾人在留同胞の米國に於ける生存權が國の一貫更なる總領事の威情的意思に依つて脅威を受ることになる譯なり。事實に於て「無政府主義者」であり「極惡なる社會主義」であるならば、吾人何を か如何なる手段、方法に依つて此の問題の正邪の審判を求めざるべからず。近く之れに關する大會開催せらるゝと聞く一般の同胞諸君は最も冷靜に感情を離れて公正なる批判の下に最後の解決に到達し以て在米十萬の同胞の生存權の安定を期ふ

第三黨運動者離散

勞働黨と合同するに決したる四十八州委員會は勞働黨の政綱中に二三の急進的條項あり之に同意し得ざるの理由を以て勞働黨より脫出せるが之れに就き四十八州委員會大會議長なりしマツヂー氏は曰く勞働黨の多數は英國式のギルドソシアリズムの主義を主張せり故に吾人漸進派の勞働黨の合同を中止せるなり

▲四十八州委員會意見區々

單稅黨及びハースト派の憲政黨等と共に勞働黨との合同を取消したる四十八州委員會の大會出席者の大部分は市俄古を去れり四十八州委員會は二三週中に改めて市俄古に大會を開く筈なりされど本年度に於ては大統領候補者を定め之黨に各地方政界の腐清運動をのみ行はん

▲新政黨自由黨組織の計畫

勞働黨及び其他の進步主義諸團體と合同して有力なる第三黨を組織するの運動に失敗せる四十八州委員會員の一部は新たに自由黨たるものを組織すべく運動を開始せり其主要人物は紐育のマカーデー氏とネブラスカ州のウレー判事なり自由黨はラフオレット氏を大統領候補者に推擧せん（市俄古發）

●共和黨統領候補と第三黨

共和黨大統領候補者ハーデング氏は第三黨組織運動に就き聲明して曰く共和黨員の一部は第三黨組織に興味を有しつゝあるが大部分は第三黨を排しつゝあり余はラフレット氏が第三黨の大統領候補者とならざりしを喜ぶ共和黨の政綱は進步的なり尙ほハ氏は大統領候補報告式演說原稿起草にて多忙なり（オハイオ州マリオン發）

●コックス氏本日華府到着

來る日曜日白堊館にて大統領ウイルソン氏と會見し國際聯盟其他の問題に就て意見を交換し政戰の作戰計畫をなすべき民主黨大統領候補者コックス氏は土曜日午後一時頃華府に到着する筈なりコ氏は華府に於ける親友なるアンスベリー判事の宅に起居せん（華府發）

●選擧戰棄報

▲ル氏全國遊說

民主黨副大統領候補者ルーズヴエルト氏は十六日紐育より華府に歸れり同氏は當分從來の如く海軍次官として奉職する筈なるが十一月の選擧前に全國遊說を試むべしと（華府發）

▲聯盟無修正失敗

華府に於ける風說に依れば大統領ウイルソン氏は民主黨大統領候補者コックス氏と日曜日に會見の際に國際聯盟無修正無保留說を主張し之れが適用をコック氏に强要するならんも若しコック氏がウ氏の勸告に從ふならば コ氏は來るべき十一月の選擧際勝利覺束なかるんとのことなり（華府發）

▲ク氏故鄉の歡迎

共和黨副大統領候補者クーリッヂ氏は父の住所なるヴアモント州プラマウクに於て田舍の人々熱誠なる歡迎を受けたり（プリマス發）

●巴奈馬水量不足

巴奈馬運河中のガーソン湖は同地方近年稀なる雨量不足に依て水量乏しくなれり故に大船の航行

●獨逸佛國に謝罪

獨逸外務次官ハイムハウゼン博士は獨逸人が伯林の佛國大使館上の佛國國旗を破棄せる事件に就き佛國大使館に出頭し謝罪せり（伯林發）

●國債廿三億餘弗

加奈陀大藏省の發表に依れば現在加奈陀國債は廿三億十一万九千餘に達せり（オツタワ發）

●米海軍志願多數

米國海軍省發表の報告に依れば米國海軍水兵志願者の數は退職者數よりも多しと（華府發）

●土耳其宰相有罪

土耳其國民黨最高法院は土耳其講和特使なる宰相ダマッパフエリット將軍及び他の講和使節を共に賣國奴なりとの宣言を受ざるを信ずるものなり。此の推定にして眞なりとせば、吾人在留同胞の米國に於ける生存權が國の一貫更なる總領事の威情的意思に依つて脅威を受ることになる譯なり。事實に於て「無政府主義者」であり「極惡なる社會主義」であるならば、吾人何を か如何なる手段、方法に依つて此の問題の正邪の審判を求めざるべからず。近く之れに關する大會開催せらるゝと聞く一般の同胞諸君は最も冷靜に感情を離れて公正なる批判の下に最後の解決に到達し以て在米十萬の同胞の生存權の安定を期ふ

●看護隊長の任命

紐育市ステムソン鎭は陸軍卿ベーカー氏より米國陸軍看護婦隊長に任命され佐官相當官の待遇を受くべく嬢は大戰中の活動の地方近年稀なる雨量不足に依て水船の航行

破壞より建設へ

伊藤正德著

巴里平和會議を目標とする若者一度等を呵して日本對世界關係を詳說す一句一章悉く金科玉條＝內容▼日本の講和破る＝▼我が敗因の研究＝▼我國民と岩等國の宣言＝▼日本遂に二等國＝▼巴里の卷に立ちて＝▼英獨の食料戰＝▼其他十二章（三弗八十仙）

正義と自由

中澤臨川著

故國識增界の最大橋頭中澤先生の勞作也＝內容▼正義と自由と財產＝▼ラツセルの立場＝▼急進思潮來の陷穽＝▼勞働と人生＝▼ボンダレフ主義＝▼無抵抗主義＝▲戰後の社會不安（一弗六十仙）

祖國を顧みて

河上肇著

本書は犀利なる眼孔明敏なる觀察力の所有者たる河上博士努力の結晶物也現度取寄せるも常に不足勝の書籍は即是れ（一弗廿仙）

THE SUMITOMO BANK, LTD.
(COMMERCIAL)
315-319 California St., San Francisco, Calif.
營業種類 本國定期預金（年六分五厘以下）
本國特別小口當座預金（目下年六分五厘以下）
本國通知預金（目下日歩一錢五厘）
大阪市東區北濱五丁目
株式會社住友銀行
社長 男爵 住友吉左衞門
是は明瞭を定めず何時にても御引出しが出來又利息は毎年當行に元金に組入れますから毎年への面倒なる御利子の預金です
外國爲替手形賣買、取立、信用狀發行、貸附其他
支店 日本內地及海外樞要の處に三十六ヶ所あり
桑港支店 桑港カリホルニア街三一五—三一九
倫敦不審の點は御遠慮なく御問合せ被下度候

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.
415-429 Sansome St., San Francisco, Cal.
P. O. Box 3125 Tel. Kearny 1396
本店 資本金一億圓 積立金四千四百萬圓
預金總額五億一千六百萬圓
外國爲替預金送金貸附割引等一般銀行業務一切
郷里送金 日本全國何レノ地ヘモ無手數料最近便ニテ發送
横濱正金銀行 桑港支店

THE BANK OF TAIWAN, LTD.
SAN FRANCISCO AGENT,
The Anglo & London Paris National Bank,
1 Sansome Street, San Francisco, Cal.
明治身一年設立 預金四億六千二百萬圓
資本金六千萬圓 積立及剩餘金一千十三萬圓
本邦（定期 期間 利子 預金 通知 期間 利子）
臺灣銀行桑港出張員 森本章一
株式會社臺灣銀行

LOS ANGELES HOTEL WASHINGTON CALIFORNIA U.S.A.
ガーフイルド二二八一
日本行流船切符販賣
羅府東第一街三三一半
みかどホテル
3314 E. First St., Los Angeles, Cal.
日本行流船切符取扱（電話）一一七〇四

桑港パイン街五五一 551 Pine St., S. F. Cal.
日本御料理 小川ホテル
桑港カリホルニア街六一二 電話カネー一八一六
帝國ホテル

日本行流船切符御申込に應ず
日本御料理 小川ホテル
桑港カリホルニア街六一二 電話カネー一八一六

古澤健 加藤芳夫 共著 日米戰爭未來記 一、五〇
樋口麗陽著 エマーソン論文集上 一、七〇 下 二、三〇
戶川秋骨譯 ベーコン論說集 一、七〇
高橋五郎譯 西南秘史 大西郷の心の奧底 一、〇〇
石井蘇山著 碧瑠璃園著 高杉晉作 一、六〇

THE Aoyama & London Paris National Bank, Tel. Kearny 5000
支店（東京、橫濱、神戶、大阪、門司、臺灣各地、上海、漢口、九江、バタビヤ、スマラン、スラバヤ、倫敦、紐育、巴奈馬、廣東、新嘉坡、孟買、盤谷、仙頭、香港、廣東、厦門、蘭領、其他 各地內外各地

青木大成堂
1601 Geary St., Tel. West 5361
San Francisco, Cal.

北米の五車堂
1698 Post St., S. F. Cal.

◆兩國委員の協議で

日米問題の解決希望

＝兩政府の披襟談合が捷徑＝

▼東京の日米有志團協議は非公式　具體的の行動は先づ兩政府に俟つ▲

紐育生命保險會社社長　紐育州商業會議所會頭　キングスレー氏談

ヴァンダーリップ氏一行と共に渡日し澁澤男以下の有志と日米問題及び東亞問題につき種々協議を凝らし後自分は一行と別れて支那に行き暫く支那内地を視察して再び日本を經由歸路に就いたキングスレー氏夫妻は昨日入港の春洋丸で歸着した、此人は大阪の公會堂の

▲講演會　で七千の大聽衆に向つて最も眞率に最も赤裸々に米國の日本移民に對する立場を言明し米國は此上日本の移民を望まぬと喝破した人であるだけ更らに飾り氣もなく膠もなく短刀直入に思ふまゝを語つて曰く、我々一行は既に報ぜられた如く四月廿六日から五月一日にかけて

▲澁澤男　を頭に戴く日本側の有志委員十七名と共に東京の銀行集會所で（一）日本の移民問題（二）加州の日本人問題（三）朝鮮問題（四）西比利問題（五）山東問題（六）日米資本合同問題（七）日米海底電線問題等を議したが何れも非公式であつた、此議した事を具體化せしむるには先づ兩國政府の

▲共調こ　兩國民の誠意協力に俟たねばならぬと思ふ、いづれ此事に就て詳しく今日の桑港商業會議所の午餐會で述べるつもりであるが扨て然らば今直ちに如何なる行動を採るかと尋ねらるゝと稍や返答に困る、いづれ東部に歸つて緩々同志と相談を重ねて出來べき方面に十分の盡力をするつもりであるといふより

▲外は無い、然らば足下は此事に就て何と思はるるやとは往訪の記者は去る十四日一行中の前コール大學總長シャーマン博士が紐育の外交關係協會でなした日米兩國委員の協議會開催慫慂の報道を見せた、キングスレー氏は徐ろに之れを見て予も此意見には賛成である、今や兩國の間に蟠まる諸種の

▲難問題　を滿足に解決せんと欲せば如何しても此法により兩國より委員を出し互ひに胸襟を披き、誠意を籠めて協議談合するより外はない、之れをなすにも先づ双方の政府自づから進んで之れに着手し而して吾人民間から之れに對して出來べきだけ間接の後援を盡力をなすべきである、自分の思ふには互が

▲誠意こ　眞率と同情とを以てかゝれば如何なる難問題でも解決出來ない事はなからうと

●噂程でない

失業問題

▲不景氣こ日本

……滿鐵で勞働問題研究……

日本が不景氣で失業者が澤山出來て困つてゐるやうに傳へられてゐる相だが、其實失業者の就職口は割合多くあつて豫想した程でなかつたとは

▼滿鐵會社　から勞働及び社會問題の研究の爲めに派遣されて昨日の春洋丸で着いた同社長室人事課員瀧本二郎氏の談である、氏は云ふ『五百、千と云ふ大口の聲がかゝつてゐるので失業者もどん／＼救はれて行つてる、併し此調子が長く續くか否かは疑問で年末頃から實際の景況が知れやう

▲米國の狀　態から見ると日本が十數年ももつと遲くれてゐるが軈ては米國の現狀が今後日本にも來ることであらうから米國を研究してたけば非常な參考となる譯、此の意味からして私は特に米國に來たがまだ滿鐵からは今一人獨逸方面へ私と同目的で派遣さるゝことになつてゐる、滿洲でも種々の

▼社會問題　が起つて來やうとしてゐる、既に常傭支那勞働者問題があつた即ち給料の支拂に銀を使用せよとか時間短縮の問題まで起つた、苦力は其日／＼の賃錢の高低加減で賃錢の高い方へ走るので餘り問題にならぬが常傭支那勞働者が問題となる、それから日本人の從業員及び

▼傭員の如　きも待遇改善を叫ぶに至つた、滿洲には日本人が彼是れ廿萬人も居るが支那人よりは却つて日本人の方が騷ぐと云ふ有樣である、時間短縮の如きは地方に依つて一樣に適用出來ぬ、滿洲では冬は七時間位しか働かぬし夏は十時間もあるので八時間制を嚴格に實行するとすると六ケ敷い』

◆國際聯盟に對し

日英國通告

▼同盟一年延長

日英兩國政府は七月八日國際聯盟本部に日英同盟を一年延長の旨通告したり同時に日英同盟再締の議已に完成し特殊條項は大英帝國領土内の狀態を參酌の上決定せんとの報道を否定せり（本社東京特電　昨日午後三時着）

●銀行は追々

貸出を開始す

▼金融緊縮も緩和

莊司由彦氏談

臺灣銀行員莊司由彦氏は紐育に赴くべく昨日の春洋丸にて來着したるが同氏の談は多くの人の悲觀說と反對にて稍樂觀的にて曰く、日本も一時は財界の動搖により各方面共極度の神經過敏に陷り銀行も自家防衛の爲め已むを得ず可成嚴重なる

▲緊縮策を採　りしが其後經濟界の狀態追々順境になり來り財界も稍や健全となれるを以て此頃は各銀行とも漸々に引締めの手を緩め確固の先きへは弗々貸出を開始しつゝあり、銀行も一方平素の華客の困る際には出來べきだけ救濟するの義務あり、また商賣をせずに

▲退縮ばかり　もして居られざれば景氣さへ出し直はれば喜んで華客の要求に應ずべし既に外國向の荷爲替買取に就ても大分手を緩め信用狀の發行も以前の如きことなく信用ある方面へは出來べきだけ應ずるやうになし居れり、惟ふに此調子ならば軈て大勢挽回の期に達せんと

●米國の電氣業

▲日本に應用研究

遞信技師本多勸一郎氏は米國に於ける火水兩力の電氣事業を研究の爲め春洋丸にて渡米したるが同氏の談によれば日本も向後製造工業の益々發達し行くと共に彌々電動力の必要生じ來りたるが現時各所に新水力電氣會社起り頻りに動力增給の途を圖り居れるも未だ充分ならず現に官民合同の

▲資本金一億圓　の大發電事業の企劃さへある位にて幾らありても不足するの勢ひなり而して目下の急務は如何に其設備を新式完全にするやにあるが之れにはどうしても世界の先進國たる米國に倣はざるべからず日本にては最近盛んに人を派して此を研究し且つ米國より諸機械を輸入して設備の研究に努め居れり、故に此勢にて進み行かば日本は近き將來に於て米國に次ぐ水電國となるべし云々

●女人夫の代り

機械で石炭

積卸しの新設備

紐育三井物產會社　池田卓一氏談

目下日本で石炭の揚げ卸しに最も盛んな門司では依然婦人の勞働者が男子に立交つて働いてゐるが是れは頗ぶる非文明なるのみならず勞働賃銀か高い場合此習慣を繼續し行くのは會社の方でも不利が尠くないから向後は成るべく之れを米國式の機械に代はらせやうと思つて其研究旁々自分は今度春洋でやつて來たのである、日本も戰時中から燃料問題が喧ましくなつて石炭の市價も非常に騰貴したが最近は英國炭の競爭を受けて外國向き輸出は著しく減少したので多少低廉になつた傾きがある、然し年々工業が殷盛になつて行く日本では此石炭の問題は却々重大で國內に於て新炭源の發見されざる限り如何しても支那か西比利へ轉向する外はなからうかと思ふ、云々。

■牛が人事不省

密造酒を頂戴し

北カロライナ州の田舍の農夫でキンクといふ男が一昨夕牧場に出て見ると牛が二匹人事ではない牛事不省で斃れてゐる▲何か不思議な病氣にかかつたものと思つて早速獸醫先生を呼んで來て診察して貰つた▲お醫者さん曰く此れは牛共が大酒を飲んで醉つたのだ▲夫れも其筈で牧場の近所に酒を密造する仕懸けがあつて牛の連中盛んにウヰスキーを勝手に頂戴して陶然として醉つた譯だ相ナ

●貨客を滿載し

春洋丸入港

▲無事平穩なる航海を續け　▲船内は相撲で大賑を呈す

既報の如く東汽客船春洋丸は昨日未明横濱より入港第三十四番棧橋に繫留したるが途中平穩なる航海を續け殊に朝日山一行の大阪相撲乘船々內に於ても勝負を爲したる爲め

▲大賑ひ　を呈したりと同船貨物は四千二百八十四噸にて豆粕、落花生、ガンニー、茶、米等主なるものなり船客は一等二百六十二名、二等五十三名、三等二百六十九名外に墨國ハバナ行支那人多數乘組み居れり

▲內同胞　船客人名は如左

▲一等（ホノルヽより）田中ミナエ（廣島）山口仙伍、同カネヨ（福岡）松本ヨシ、同英雄、同逸次（廣島）栗原好助（山口）大橋與市（ホノルヽ）片岡正一（山口）古川悟（廣島）畠山鑑雄（愛媛）李肯鐘（朝鮮）藤田積雄（兵庫）綿元傳吉、長廣ミチ子（山口）瀨尾順（愛知）林ハナノ（福岡）酒井庄三（大阪）坂本ツル、同鶴藏（廣島）宮崎正雄（京都）住田代藏（廣島）平塚德也（橫濱）畑與一（廣島）

▲一等　井口惣三郎（大阪）古田キク（長野）仲佐貞次郎（千葉）杉野耕三郎（岐阜）原文（愛媛）河合幸三、島井吉三郎（大阪）影山ヤマ、同鐵三郎（栃木）本多勸一郎（熊本）谷忠太（岡山）栗田信平、同フミノ（群馬）中曾小市、同コメノ、長谷川アキ（宮崎）岸八郎（栃木）田村半三（東京）久米藏、同和子、同利郎、同武夫、同菊江郎（東京）村田文三郎（大阪）安田半次郎（京都）近藤太文（愛媛）小島婦美子（長野）島本友雄（山口）中原末寅（熊本）莊司由彥（東京）山內重馬（愛媛）猿橋雷哭（秋田）坪內鍵助（兵庫）池田卓一（東京）岡田與吉（滋賀）增衛（山口）西岡郁子（福島）芝崎孝治（東京）中村源一郎（和歌山）多田俊子　田口憲二（東京）瀧本二郎（愛媛）川越三郎（東京）藤田卯吉（福岡）山本コト、中川喜代造（大阪）小穴宗次（長野）村元西司那子（東京）鋼浦壯美（宮城）橋本多津一（廣島）丸野豐（福岡）平松德次（大阪）水野喜代、同隣太郎、同直次、小野塚クニ（橫濱）植松クニ子（靜岡）

▲二等　森下平三郎、同イネ、同輝雄、同節雄（和歌山）平岡ケイ（德島）飯泉キヨ（茨城）北澤幾久枝（長野）平岩ケイ、同照子、德永清太郎（愛媛）河崎興一（石川）堀內定次郎（富山）長賀粂二郎（高知）原谷太郎（和歌山）樋掛麟外子（石川）渡邊チヤウ（岩手）中村多七（三重）大藤豐（千葉）若城安次郎（滋賀）本田惣三（福島）竹下正夫（福岡）高次テルミ（廣島）藤田元三郎、同タケ、同千枝、同嘉美、同辰（青森）シユートンサツク●クレアラ（東京）松本勝男、同蕙（鳥取）島常男、同モン（長崎）木村宗之、北原末喜、同シホ、今村正夫、同スヤ、有馬ミエ

▲三等　田代雪枝、同豐子、同隆信（佐賀）宅上塚龜三、同壽惠、上妻カヅヨ、同勇、同藤枝、大谷菊太郎、同ハルエ、入江眞證（熊本）德重豐次郎、嶋田アサキ、藤本勝藏、同壽、出口カネ、同ヒサ、田邊繁夫、同ミサヲ、萩スヅ（福岡）林琴野、久保田淺、山本カナノ、大西周作、山西マツ、林元吉、伊川辰三、同シヅヨ、山根皆藏、塚本篠吉、升野カスミ、中村ツヱ、野口市太郎、山崎市太郎、綿平カヨ、渡部フミ子、畑山トク、同ヨシ子、奧本不時作、大澤シナ、加谷喜代一、和田彌太之助、同繁、下村吉太郎、同與則、綿平市五郎（廣嶋）武安文子、荒木繁野、赤木儀作、淺野志賀、難波惣三郎、同靜江、長尾小歌、長森百太、本田諒二、太田八重野、森田茂登藏（岡山）森田スヅヱ、兒新熊男、栗本常次郎、松原サノ、木下喜次郎、楠見又一郎、筋師巳喜藏、同逸造、竹中千之助、同妻、林、田中ヒサ（廣島）物部光政、同儒意、森田德顯、同魁、同清、同喬（高知）宮川マス（山口）土生章平、同シズヱ（大阪）吉田信治（兵庫）山本清吉（奈良）山西重吉（廣島）長森榮（岡山）岩本長吉郎（和歌山）奧村米吉（京都）清水十一（愛知）谷貞次郎（石川）千原米三郎（大阪）荒木龜雄（兵庫）宮甚之助（廣島）中井三次、宇佐崎政次郎（大阪）佐々木松太郎（秋田）三木喜三郎、廣瀨興惣太郎、加藤千代松、內山專三、辻岡松之助（大阪）河本大八（兵庫）米澤菊松（大阪）田所信次郎（兵庫）井上柳一（廣島）中村村藏（福井）米井勇次郎、井上新五郎、平野清治（大阪）池田伊太郎（和歌山）上中幸次郎（兵庫）出口治一郎、橫田貫一、塚本龜太郎（大阪）阪元惣四郎（石川）澤田榮太郎（大阪）紺谷德治郎（香川）戶湯勇、田村角、高橋友之進、同ライ、同一男、森村市助、同カメヨ、森本初吉、同ハヤ、田邊チト、メ、大野小一、友田ユタニ、同キミコ、美代子、片岡ツルヨ、濱住新一、同イチヨ（廣島）山根常太郎、笹尾逸三、同シモ、岩政彌一、中山孫介、チ、尾川政一、同岩吉、小原嘉一、林靜子、角納喜代楢（山口）山本寅一、伊藤ミサヲ、實、同元彥、同嘉三（長崎）長谷川マツ、（靜岡）百井廣次郎、同小千、宮坂勵童、近藤愛子、同孝（長野）安本幸、同音平（岡山）池田信八、同ミツエ（熊本）井戶田增次郎（愛知）茅島多衛（鹿兒嶋）尾島マサヨ、菊池ツルノ、能間岸（福岡）三枝シ（茨城）川崎一郎（東京）佐藤勝三、同吉左工門、加藤勝八（福島）齋藤宗一、沖邊喜太郎、同リキ、同彌介、佐藤正（山梨）鈴木堅安太郎、同カツノ、佐藤正、菊地與之吉義信（三重）二國助三、伊藤ミチエ、同内タキ、同文、同辰一、同晃一、新里貫一同シゲ、岡シヅ、川守田英二（岩手）高松タキノ、同三郎、小宮俊一、同ヒロ、同正雄、小澤トリ、米山田造、高松勉、同サエ（神奈川）

●各地玉葱最近市況

▲農務省より發表

本年はアニオンの市價は著しく暴落して遂に其生產費をも償ひ得ずして其處分に困り一時河中に投じたるものさへありたるが昨日合衆國農務省桑港出張所が調査報告せる處に依れば昨今の市況は大體左の如しと

▲羅府　河下產黃一袋一弗五十仙より一弗七十五仙、荷動き捗々しからず

▲紐育　ニユーゼシ產バスケツト黃及白九十仙より一弗、赤一弗より一弗廿五仙

▲市俄古　加州產一クレート黃及白上等一弗廿五仙より一弗五十仙

●邦人棉花園購入

エルパソ市附近のエリザリオと云へる所に於て加州より來りし土井及び白石其他數人組合にて九百卅八英町の灌漑設備ある良田を十萬七千弗にて購入したる由なるが其目的は棉花作ならんと

●特別稅

届出を怠るな

▲株券稅共月末迄

中央政府當地支局よりの達しによれば來る七月卅一日迄に納入すべき特別稅はブローカー、質屋、劇場、ミユゼアム、舞踊場、玉場（ボーリング・アレー）射的場、煙草店、乘合自動車屋及び會社等にして凡ての內國コーポレーションは五千弗を除外したる

▲總ての株券　時價額を届出で之れに對して毎一千弗に一弗づゝ納稅し外國コーポレーションは此五千弗の除外例もなく全部の株券面時價に對し毎一千弗に一弗づゝの納稅をなすべき届出を要すとの事なり、右の届出用紙は稅關の稅務局或は其支局にて賦與すべく右を怠る者若しくは一千弗以上一萬弗以內の罰金若しくは一ケ年の投獄或は双方を課せらるべしとのことなり

●米國出生の

日本人調査

▲東ケ崎潔君を審問

加州在留日本人狀態を調査中の合衆國下院移民委員一行は更に米國出生の日本人に面會したしとのことにて之れが代表者として共同消費會社長東ケ崎菊松氏令息潔君が招かれ本日セントフランシス・ホテルの同委員會に赴くべく折惡しく日曜學校生徒を引率してミユアウツドに出張中なるに依り青年會主事富澤清氏が出迎へに昨日同地に赴きたりと

■要求欄■

人事

中歲の女兒預(人)まで託したし　委細日米新聞社內重富まで

花園に働きたし食室よき處　遠方差支なし　1711 Post St., S.F. Tel. West 2803

●グリーニング方一名　スペテング方一名　至急入用　無經驗にてもよろし委細御面談　Home Cleaning Dying 909 Wash. St.

婦人數名入用　經驗の有無に係らず　桑港グーリー街　中村洋服雜貨店

婦人入用　桑港グラント街三一五　遠藤美術雜貨店

クック（給料百廿五弗）ウエター（給料九十弗）至急入用　電話カーネー三〇〇三　278-3rd St.　ゴールデンベー洋食店

熟練なるアイオン方二名月給一百十弗　夫婦の方にてもよし給金は特別御相談可　中流車賃は當方にて支拂ふ三ケ月以上就働の方には往復の流車賃を支拂ふ　オレゴン州クラマスフオールス　ニユーシテー・ステーム洗濯所　仲田　5 Main St., Klamath Falls, Ore.

右至急入用

夫婦者入用　夫婦揃ひ働き要店手傳ひ委細面談　電話パシフヰツク二六四　公園荻原

職工二名　至急入用　高給を拂ふ　チブロン洗濯所

男女教師二名招聘　夫婦の方が望む男女別々にても宜し履歷書を添へ左記へ申込れたし　235, 7th St., Oakland　王府學園委員　池田貫道

裁斷師入用　熟練なる男女洋服裁方高給入用　詳細は直接御來談を乞ふ　ブツシユ街四六一　ヒノエ組

夫婦者　職工入用　高給を拂ふ　委細面談　參積フルトン街　フルトン洗濯所

將來有望なるタイヤ修繕業教授　條件に依り無月謝にても宜ろし委細面談　Yokohama Tire Co. 1033 G. G. Ave. S.F.

●學園教師二名招聘　夫婦の方希望、九月の新學期より補習科一週五日午後約二時間勤務、但し八月廿日頃來任の事住宅提供無給拂ふ希望の方は履歷書添附下名迄御申込を乞ふ　南加モネタ學園理事　櫻井榮太郎　P. O. Box 97 Moneta, Calif.

●店員帳簿係り　一名入用　高給支拂　英語の素養ある者　委細書面又は面談　スタクトン　218 El Dorado St.　長谷川商店

●水晶印形專門　甲州堂　1311 Eddy St., San Francisco, Cal.

■物件■

賣地　所在サンタクルズ七英町半六室の家屋バーン、鷄小屋シエード　あり水は園內にあり市木月五十仙賣値六千弗貸地してもよし　Box 63 San Mateo

洋服洗濯所讓り度し　有望なる場所得意附の儘賣りたし　希望の方はスタクトン日米支社へ

好機を逸する勿れ　夫婦者に好チヤンスの喫茶店多忙の爲め讓渡したし家賃、水電氣瓦斯無代、御希望の方は至急御來談を乞ふ（收益確實）　524, 15th St., Oakland　午前九時より午後五時三十分まで

洗濯所賣たし　近代的設備ある洗濯所にして一週間の收入約千弗兼賃賠價場所頁好　至急賣たし委細は左記に問合を乞ふ　1831 Irving Ave., Oakland, Calif.

●洗濯所賣物　ローダイ唯一の確實有利なる洗濯所主人歸國に付至急賣渡し度し詳細は面談或は左記の所へ問合せられ度し　Lodi Union Laundry　122 E. Elm St., Lodi Calif.

貸室　グラージ付働口澤山あり電車便利よし　宅地主秋山、參鐵アシビー街二〇四〇電話參嶺一六七六

古本高價買入　如何なる種類にても差支無し　運賃先拂にて御送附を願升　文明堂書店　123½ N. San Pedro St., L. A. Calif.

店貸たし　角店に移轉の爲現在の店を貸したし店內設備現在の儘にても借人の希望通りにす　ラグナ街　大正藥店

■尋ね人■

渡邊學（愛媛縣人）氏に告ぐコートランド の件越智清作氏仲介無事解決至急面會したし住所乞御通知　R. F. 1 Box 79-C. Elk Grove, 秋山法一

山下彌一（廣島縣人）母フサ及ヽ人の住所知り度し本人及住所御存知の御方は下記へ御一報相煩はしたし　中真之助　310 Sansome St., San Francisco, Cal.

●尋人　廣島縣安藝郡矢賀村　寄田俊輝　殿實弟病氣に付現住所至急通知あれ　所在御存知の方は乞御一報　布市カーン街一五四一　濱住新一

米策藏（熊本縣八代郡千丁村字古閑出）　昨年歸國の際國許より主要事件の依頼を受く至急面會又は現住所知りたし　アイルトン橋本商會內　西村軍太　P. O. Box 224 Isleton, Calif.

琴、三味線、尺八合奏▼　かすみ會　音樂會　●今週日曜（十八日）午後七時から　●同好諸兄姉の御來會を歡迎す　▲桑港ブキヤナン街一七三一▼

第三回北米　母國訪問團　▲シアトル出發九月十一日　▲乘船日本郵船諏訪丸　▲詳細は申込次第規則書發送　シアトル南五街二百十六　責任者　宮崎德之助　T. Miyasaki, 216-5th Ave So., Seattle

在米高知縣人　今回同胞の實狀を洽く郷里に報ぜんため五六百頁の一書を刊行し町村役場其他へ約三百冊を配布せんとし在米縣人一同より寫眞履歷寄稿寄附を募集締切八月十日何卒公共的精神より揮て應援を乞ふ詳細は左記く　萬辨舍　文學士　岡直樹　2206 Pine St. S.F. Tel. West 6544

桑港グリー街一五二九　金門商會　電話ウエスト四三七九

かまぼこ　製造卸小賣　特に御贈答品は御注文次第調製　並に鮮魚食料品一切

進物用鑵入茶　相馬山　一斤一弗五十仙　半斤七十五仙　千代の友　一斤一弗六十仙　半斤八十五仙　寒梅　一斤二弗　半斤一弗　花の香　一斤二弗　半斤一弗　最上　一斤二弗五十仙　半斤一弗二十五仙　大走り新茶　一斤三弗　半斤一弗五十仙　相馬自園　一斤三弗五十仙　半斤一弗七十五仙　富士自園　一斤三弗五十仙　半斤一弗七十五仙　好老松　一斤四弗　半斤二弗　花の白　一斤五弗　半斤二弗五十仙　玉露　王冠　一斤六弗　半斤三弗　相馬茶店　SOMA TEA STORE 232-234 E. First St., L. A. Cal. Phone 63198

廣告　豫て問着中なりし桑港旅館組合對永本旅館問題に關し今般小生より兩者無條件にて和解する樣斡旋申出候處幸に兩者の納得を得今回愈圓滿なる解決を見永本旅館は本日再び桑港旅館組合に復歸加盟致候間此段及廣告候也　大正九年六月十七日　東洋汽船株式會社　桑港出張所　土井慶吉

公認大正藥舖　電話ウエスト五九七七　TAISHO DRUG STORE 1547 Laguna St., S. F., Cal.　桑港ラグナ街一五四七

和洋雜貨、時計、寶石類、煙草　財滿商會　桑港グリー街一五一五　電話ウエスト九三九二

貸金　自由公債買入及び抵當低利貸金　貴金屬品　フイルモーア質店　寶買勉强　物品は七ケ月保管す　エコーン　桑港フイルモア街　ゴールデンゲート街角

御祝御佛事用　長崎名物カステラ特製　御菓子司　花月堂　桑港ポスト街一七三二　電話ウエスト

御菓子御商　菊屋商店　桑港グラント街四一七　電話ガーフイルド二二九八

上等婦人帽子　特別勉强　フイルモア街一六四〇（夜間營業）　ポストとグリーの間　ローズ帽子店

小田運送店　ポスト街一七七六　電話フイルモア四六一

母心　婦人良藥血の道藥（一週より五週間）　朝日運送會社　桑港ブキヤナン街一六〇一　電話ウエスト七一一七

金銀時計、小間物、化粧品、賣藥、被服、諸雜貨　菓子屋向原料品一切、製菓卸問屋　桑港支店　丸三貿易商會　360 Brannan St., San Francisco.

通信販賣　桑港ラグナ街一六〇八　都商會　益子恒

名醫紹介並に通譯　大學教授各專門博士を紹介し懇切に一切の御世話をする　桑港ポスト街一五九四大阪藥店內電話ウエスト三四七四　藥學士　藥劑士　渡邊啓

春洋丸　七月十六日　七月廿六日　日本行
波斯丸　八月三日　八月十日
これや丸　八月十二日　八月廿一日
さいべりや丸　八月廿六日　九月四日
海洋丸　八月下旬　貨物船南米行
天洋丸　九月十二日　桑港發
九月十八日　ポートランド發日本行
靜洋丸　九月十三日　九月十五日　南米船日本行
春洋丸　十月四日　十月十四日
安洋丸　十月十八日　十月廿日　南米行
マーケツト街六二五　電話サター一三九〇〇　東洋汽船株式會社

シアトル出帆廣告
伏見丸　七月三十日　午前十一時
香取丸　八月廿一日　午前十一時
諏訪丸　九月十一日　午前十一時
鹿島丸　月日　午前十一時
409 Colman Bldg. Seattle, Wash.　日本郵船株式會社　シアトル支店

御通知次第東洋觀光團趣意書送呈す並日本行切符取次　觀光團員募集　山口屋旅館　37 Jackson St., San Francisco, Calif. Tel. Kearny 2487

十一月十九日サイベリヤ丸桑港出帆東洋觀光團、滊船切符取次　觀光團員募集　日本ホテル　電話ウエスト五二一五　1551 Laguna St., San Francisco, Calif.

御通知次第趣意書送呈可仕候　觀光團員募集　安藝ホテル　館主　片岡一郎　1651 Post St., S. F.　Tel. West 6211

日曜學校世界大會出席團、桑港出帆九月十七日の天洋丸　母國訪問團　申込次第規約書發送　團長　河合龍三　幹事　鵜浦小二郎　936 Wall St. L. A. Cal. 2022 Dwightway Berkeley, Cal.

日本行汽船切符代理取扱　觀光團員募集　北米旅館　高田粂吉　電話ウエスト二九一六　1570 Buchanan St., S. F. Cal.

◆大阪角力渡米◆
來る十七日入港の春洋丸にて大阪角力大錦　朝日山一行四十五名着桑
興行時日　來廿四、五、六、三日間
場所　スタイナー街　ドリームランドリンク（ポスト街とサター街中間）
次回興行スタクトン市　來る廿八、廿九日兩日
桑港興行會社　支配人　奧定吉　中野作太郎
本部　加州館內　加州桑港スタクトン街一〇一九番

醫者と病人　專門通譯
諸病各科專門白人名醫を紹介し懇切に一切のお世話をする、質問隨意、應答無料
●鈴木事務所　▲桑港ブキヤナン街一七三一　▲電話ウエスト八一二四　K. S. SUZUKI'S OFFICE, 1731 Buchanan St., S. F. Calif.

◈南加羅府に強震

▼昨朝と午後と三回

◈出火二件＝負傷者五名＝

＝建築物破壊＝隧道崩壊◈

＝日本人街附近危險＝

……（附近各都市には影響皆無と）……

昨朝十時〇八分南加羅府に突如として強震あり、午後一時二十七分より同二十九分に更らに二回の震動あり建築物の小破壊、出火、隧道崩壊等の惨事を演出、重輕傷者數名を出したるが被害箇所は何れも羅府市目抜きの繁華なる場所にて日本人街より數ブラック以内にあり今諸電報を到着順に從ひ左に譯載する事とせり

▼第一回は上下震動

▼負傷者四名

＝羅府市以外に影響なし＝

今朝十時〇八分強震あり震動は約三十秒續きたるもの如く烈しき上下動搖にして家屋建築物の小破壊多數に上り硝子の墜落其他の爲め三名の婦人を一名の小兒重輕傷を負ひたり、今朝の強震は單に羅府市内にのみ發生するもの〻如く羅府附近各市より達したる狀報に依れば僅かに羅府市西南に位するイングルウッド市にて多少の震動を感じたるのみにてポモナ、オンタリオ、サンデーゴ等に何等の影響無かりしと（國際通信）

▼邦人街附近の隧道崩壞す

▲目抜きの場所

午後一時二十七分より同二十九分迄の二分間に激震あり市内目抜きの場所に在るトンネル附近の練瓦積み煙突倒壞して失火せり、ハリウッド行太平洋電鐵線の通ずるヒル街隧道（第一街とテンプル街間）内の一部破壞し電車不通となりたり（聯合通信）

附記＝右隧道は日本人街中心地より四方四ブラックの地點に在り羅府警部所、市警察、市監獄、郡裁判所、市廳等其の周圍一ブラック内に散在す

▼多數の群集街上を混亂

▲硝子と壁の破壞

午後一時二十七分より同二十九分迄の第二第三震動に二ヶ所より出火の飛報あり、人畜死傷有無に關しては未だ判明せざるも多數の群衆は屋内より街路に飛び出でゝ大混亂の光景を呈し室内の壁及び窓硝子の破壞墜落するもの夥し、第一回出火はゼラパック紙會社建築内に發したるものゝ如く、第二回出火は直ちに消し止めたりとの報あり、商業區域内の車馬交通は非常なる混亂に陥りたり（國際通信）

▼貯水池の破壞

▲建築物に給水斷絶

午後三時判明せる處に依れば羅府市に供給する數ヶ所の貯水池

崩壞せる由にて又强震の爲め數個の建築物給水パイプに故障を生じ給水斷絶せりと（國際通信）

▼第二震で重傷

▲墜落煉瓦の爲め

第二回震動に於てエドワード・チェンクル（五三）負傷し收容病院に於て應急手當を受けたるが負傷は脚部挫折にして西第一街とブロード・ウエー附近を通行中建築物より墜落し來れる煉瓦の爲め壓せられたるなり（聯合通信）

附記＝右負傷せる場所は羅府タイムス社の有る處にして日本人街中心地より四方三ブラック以内なり

▼婦人連の氣絶

▲應急手當所の多忙

午後の第二及び第三强震の爲め數ヶ建築物の街頭に面せる壁崩壞せる報告あり、各デパートメ

●支那の紛擾に日本は無干渉

▽外務省聲明

日本政府は支那の安禍、直隸中南派の反目動亂に何等の干渉を試みたりとの報道は全然虚報にして日本政府は一切干渉すべきにあらずとの訓令を發したりと外務省より發表あり（聯合通信）

●聖上陛下御歸京

沼津御用邸に御避暑中なりし聖上陛下には七月十七日御歸京遊ばさる

●奈良中將を拔擢

參謀本部附陸軍中將奈良武次氏は東宮武官長に補せられたり（本社東京特電昨夕八時着）

●國際通信會社日本委員

▲影山遞信監察官渡米

春洋丸便にて夫人同伴渡米したる遞信省監察官影山鉄三郎氏は來る八月一日より華府に於て開催せらるべき第一回國際通信會議豫備會議委員として幣原大使及び陸海軍代表者と共に出席する筈にて同氏の談に依れば同氏は來年七月十二日サンフランシスコに於て開催せらるべき第一回國際通信會議に日本より提出し本會議に持ち出す案として未だ何等具體的のものなけれども古領地海底電線問題其他戰爭に關連したるもの以外にも種々の問題ある事と思惟さる從つて國際聯盟の一部通信會議なれども此の廣き意味を有する故を以て批准の如何に拘はらず米國も參加すべしと

▲本會議は十一月五日より華府にて開催され前記豫備會議出席の五ヶ國以上の各國代表者が出席する事を可しと

●婦人の口から改造の叫び

▲曼めかれた日本婦人

紐育基督女子青年會幹事養成所に於て一ヶ年間研究後の一年は實際事業を視察する爲めに一年は米國に渡り大阪女子青年會幹事をして居る由本こと子女史は

▲日本に於ける婦人問題に就て語る

東京の如き大都市地方とは自ら異つて居りますが都會の女學生は眞面目に思想問題などを研究して居る樣です又

た最近は主婦の方々の中にも家庭の改造とか衣服の

▲改造といふ樣な運動が漸次盛んになつて來て居ります此の點から見ても日本婦人は國際聯盟の一部通信會議をも此の廣き意味を有する故を以て批准の如何に拘はらず米國も參加すべしと

▲本會議は十一月五日より華府にて開催され前記豫備會議出席の五ヶ國以上の各國代表者が出席する事を可しと

●余は恒に日本の友である

▲キングスレー氏演說

昨日歸米したるキングスレー氏は午後一時よりエクスチャンヂ建物内に於て商業會議所及び商業倶樂部主催の招待會に於て演說を試みたるが來會者は商業會議所會員、商業倶樂部員、紐育生命保險代理人等約一時間に亘り熱辯を振ひ日本に於ても歡待を受ひ且つ自分は恒に日本の友人であると云ふ論旨にて論を結び一同に感動を與へたりと因に氏は今朝九時紐育に向け出發の筈

●東洋汽船米布間客從來通り許可せる

▲唯だ問題は運賃引上げに對する日本政府の優柔態度と▼

＝總領事館なども盡力す可きだ＝

▲日本國家の權利伸張

特別の取扱ひに依り布哇米國間の船客を許可せられ居たる東洋汽船會社に對し一時同取扱ひの中止を命じ來れるも船員不足の今日更に繼續する事となられんの士井氏の意見を報道したるが其の後

▲船舶局より正式に東洋汽船會社に對し從來通り乘客を搭載せしめて差支へ無しとの許可ありたりと云ふ從つて今後引續き布哇行旅客及び布哇よりの旅客に船室を提供す可しと唯だ會社當事者として目下困り居る米布汽船會社は最近米布間の運賃を二十弗

▲値上げしたるに拘らず政府の補助を受け居る東洋汽船は當局の許可無くして値上げを爲す能はざる事情にあるに拘らず米國汽船會社は日本船に特に該特典を與へ居るに運賃を米國船より安くし居るは米國と競爭の爲めなりなど時節柄曲解されては折角得たる

▲特典を奪はるゝ恐れなしとせず會社側も此の點に留意し事情を具して米布間だけは米國汽船並に値上げ許可せられん事を請願し居れども當局者は優柔不斷なる爲めか未だ何等の回答を與へざるの事なるが斯く却て整理が附かず何れも平氣で居る會社でも人員の淘汰位は消ゆ失せて仕舞つた、又廢つて小會社には見る間に石塊玉の樣に消ゆる會社の利害なる爲めか未だ何等の回答を與へざるの事なるが斯く却て整理が附かず何れも平氣で居る會社でも人員の淘汰位は消ゆ失せて仕舞つた、又廢つて小會社には見る間に石塊玉の樣にたとだらう又た此の光榮を撮られなかつたさぞ花嫁連は落膽して待會に出席しと爲め同船に搭乗し一同を天使島移民局に送りたるが或者は疲勞の爲め歩行も不能なりしと

●石塊玉の樣に消ゆる會社

話以上の不景氣

▲岡田商會主談

商用の爲め一時歸朝中なりし當地同盟田商會主岡田與吉氏は昨日の春洋丸にて急遽歸朝したが同氏は故國し經濟界の變動の甚だしかりし事情に就て語るらく今度の經濟界の

▲激變では日本の大商店と云はるゝものは大抵打擊を蒙り茂木合名や大正貿易其他の大小會社は見る間に石塊玉の樣にたとだらう又た此の光榮を撮られなかつたさぞ花嫁連は落膽して待會に出席しと爲め同船に搭乗し一同を天使島移民局に送りたるが或者は疲勞の爲め歩行も不能なりしと

◈日本人街實檢

▲十九日と決定す

下院移民委員會の日本人調査今後の日程は左の如しと

▲十七日　天使鳴防問

▲十九日　桑港日本人街實地調査

▲二十日　バレオ、ナツパ方面

●今夕の在留民大會

▼場所は蘇國會館

昨紙所報太田總領事暴言問責在留民大會は豫定の如く今十七日夜正八時よりサター街パンネス街角スカッチシュ會館にて開催する由にて同會場入口は サター街一二七〇なり と猶は出演諸婦士の顔觸れ及び演題は左の如しと

大橋邦三郎氏　臼井倉三氏　源平氏　藤本　吉次氏　井岸　大澤　靏氏

問題の根本　國民忠を談じ　遊女道を說く　同胞の公敵太田爲吉氏　大野　東作氏　木村貞男氏　吉野清太郎氏　安岡文太郎氏　石島勘三郎氏　井村坂之助氏

捨て置く可らず　臼井倉三氏　余の希望　正義の吾人　司會者（其他多數）

●萬引の主は妙齡の美人

▲賓石商を荒し廻る

近頃桑港市内の賓石商を荒し廻る女の萬引があると云ふので警察では秘密に警戒中であつたが一昨夕下町マーケー賓石店にブロール探偵が張り込んでゐる處へ店頭を通つた一婦人が

▼萬引の女であると番頭が證言したので有無を云はさず捕縛して取調べて見ると此婦人は名をロージヤス夫人と呼び未だ妙齡の美婦人で石マケー商會の指輪時計等を萬以外の數ケ所で引したる事を白狀し已に昨日オベンハイム判事法廷で豫審があつたが彼女の

▼申し立てに依ると同女は良人に見離なされて市俄古から桑港に來り空腹の爲め此の罪を犯したるとあつたが猶は餘罪ある見込みで嚴重取調べ中

●密航支那人廿七名發見

▲支那ナイル號に

最近支那郵船會社所屬船にて支那人密航者ある爲め米國官憲側にて警戒中なりしが一昨日入港せる同社船ナイル號に臨檢せる稅關吏は同船下甲板用水タンク中に異樣の呻き聲を耳にし早速取調べたる處中に二十七名の支那人が鰯詰めとなり何れも氣息奄々たる狀態に在りたるを發見し一同を天使島移民局に送り入手數料一件に付金廿五仙申受候

大正九年七月十二日

サンフランシスコ

運送業者一同

●議員連見參せず嫁御寮落膽

▲眞眞班擊退さる

昨日の春洋丸は寫眞結婚婦人船と計りに英字紙に書き立てられ議員連も必定所謂寫婚婦人に見參するとの觸れ出し船の方でも船内を綺麗に掃除し

▼花嫁御寮も大いに光榮

と化粧をして見參を待つて居たが議員連は須市で牛島氏の招待會に出席しと爲め同船に搭乗せざりしとの報あり

▲見馴れぬ連中を見た後

橋附近の米人あれは日本の或特殊な地方に住んでゐる人か婦人が相撲を取るのかとか

●大兵肥滿の相撲連乘込む

▼日本の特殊人種かとか、あれは婦人でないかと奇問續出▲

◈朝日山關以下一行四十名◈

奇問を連發して日本人を大分弱らしてゐた一行は特別扱ひにて一二三等共に船より直接上陸を許りされ自働車で各旅館に

▲分宿した　興行は廿四日を初日に三日間當地を打ち其後各地に巡業の豫定一行出身地は左の如しと

▲關脇大錦（大阪）▲關朝日山（大阪）▲關二瀬川（同山）▲朝日山（同山）▲朝千鳥（和歌山）▲朝山（高知）▲大桑（石川）▲西ノ藤（愛媛）▲二瀬川（大阪）▲山の音（廣島）▲岩の松（大阪）▲南鶴（和歌山）▲荒木山（兵庫）▲駒嶽（京都）▲松ノ矢（香川）▲御所車（大阪）▲千代鶴（石川）▲放駒（和歌山）▲朝ヶ山（熊本）▲松（石川）▲月の戸（兵庫）▲金錦（愛知）▲小朝日（大阪）▲鳴坂（大阪）▲荒田山（大坂）▲鶴嶽（廣島）▲錦嶽（大阪）▲若山（石川）▲木村富三郎（大坂）▲木村誠道（愛知）▲木村正直（石川）▲木村富三郎（大坂）▲木村友七郎（大坂）▲頭取大鳴門（兵庫）▲若者鶴嶽（大坂）▲世話人大城山（和歌山）▲呼出し村村藏（福井）▲床山佐々木松太郎（秋田）

●墓參追吊會

今般亡兄松原勘藏の遺志に因り有志諸彦の賛助を得て桑港舊墓地理葬先亡者百五十名の爲に左の通り墓參並に法會相營候間在留諸兄姉の御參會を希上候

墓參會　七月十八日（日）午後一時サター街衝き當りローレル舊墓地に於て執行、電車はサターの一又は二にて墓地裏面バーカースアベニューの裏門口に下車を便とす

追吊法會　七月十八日（日）午後七時半バイン街一八八一佛教會に於て第一式法會讀經、各代表者吊詞及說教　第二式寄附演劇　桑港演藝會員一同

主催者　勘藏未亡人　松原大吉　ミツ子

世話人　萩原　眞　塚本松之助　富山三平

賛成團體（いろは順）

鳥取縣人會　岡山縣人會　和歌山縣人會　香川縣人會　神奈川縣人會　長野縣人會　熊本縣人會　山口縣人會　山梨縣人會　高知縣人會　静岡縣人會　廣島縣人會

御披露

皆々樣々御清福奉慶賀候陳者内部改造の爲久敷休業罷在候處壁電氣敷物器具の末に到る迄全部美しく出來仕候間何卒倍以紙上御披露申上候

桑港グリー街一五〇五

一富士

救世軍　本營小隊　桑港所

電話ウエスト六〇八二

（電話ウエスト一〇五四）

元吉寫眞館

桑港フォルモア街一〇〇九番（スインシヒカリフォルニア通）

新斬流行

大勉强

谷靴店　販賣部　修繕部

グリー街一五〇九

電話六三二一九八

相馬茶店

234 E. First Street, Los Angeles.

本年度

新茶定價表

大々走新茶　一斤十五弗

大走鐘入　一斤三弗

半斤　一弗五十仙

同　三オンス七十五仙

同

紳士淑女子供衆用

特別大勉强

靴一切

浦川靴店

桑港ポスト街一七一七　電話ウエスト一三二九

日本人向

最新刊紹介

米國よりの脚本集　堺山川共著

マルクスとクロポトキン傳　遠藤無水

クロポトキン評傳　堀江歸一

經濟組織改造論　森戸辰雄

勞働者問題　伊藤圓定

科學上より觀たる極樂の實在　小田律

大犯罪人の研究　巖谷小波

ベルシヤ魔神物語　新らしき村の生活　武者小路實篤

岩野泡鳴　燃ゆる襟　情か無情か

同　山田わか　戀愛の社會的意義

エレンケイ　戀愛と結婚

二、〇〇　三、〇〇　一、八〇　一、三〇　三、五〇　一、八〇　一、五〇　一、九〇　八五　一、七〇　一、八〇　二、四〇

よろづ商店

1300-4th St., Sacramento, California

佐藤健

桑港フイルモア街一六三三　電話ウエスト六三六〇

原田寫眞館

（ポストとゲリーの間）

Misses Coleman & Lloyd, 2905 Bush St. Near Lyon St., S. F.

實用英語學校（千九百三）

毕創立

ポスト街一五八〇

自動車修繕所

電話ウエスト一八八

太田崎

●發表塗彩自午前九時至午後九時

電話ウエスト一八一

桑港サター街一七九七

森山寫眞館

桑港フイルモア街一三三

電話ウエスト一八三六

デユポント商會

食料品雜貨

洗濯用品一切

桑港グリー街一五〇三

電話ウエスト一八三六

病者の爲

信頼の出來る醫師、血液檢査所及びX光線部の紹介を發見せられたりとて日本新聞は之等船員の非人道的行動を非難攻擊せる記事を掲載し居れり

桑港ラグナ街一四三二　救世軍顧問

電話ウエスト六〇八二　警事部問

古庄弘

同（ムロック街五二五　電話フイルモア六一八

シンガーミシン

一ヶ月間裁縫無料教授

シヤップ新設

●キャル地を持つてゐらつしやい

●どんなスタイルでもお好通り

▲極めて安價で仕立ます

桑港フキヤナン街一四三一　電話フキヤナン一九八七

みどま

ポスト街一五八〇

自動車修繕所

電話ウエスト一八八

太田崎

●引延　●進呈

電話ウエスト一八八五〇

吉里寫眞館

桑港フイルモア街一四三七

電話ウエスト一八八五〇

金門貸自働車

ポスト街一六五七　電話フイルモア一三五七

ゲリー街一四〇八

英語個人教授

精肉切賣

並に、すき燒

ブキヤナン街一四〇九

電話ウエスト一六六一

博多屋

KASHU HOTEL

1019 Stockton St., S. F.

Tel. Douglas 8667 Sutter

迎妻者の福音

來る十一月十九日サイベリア丸第七回東洋觀光團々員に限り出國稅免除の特典を有す

加入御希望の方は御一報次第趣意書を御送附可申上候

申込所　加州館　館主　中野作太郎

アイスクリームパラー新設

勉强堂製菓會社

桑港グリー街一五三三　電話ウエスト七五三七

新式自轉車モータサイクル及附屬品一切並に修繕

輸出入　卸小賣

部谷自轉車商會

桑港ポスト街一八二四　電話ウエスト八三九六

一日十仙たやすく買へます

シンガーミシン特價販賣

桑港ブキヤナン街一七一五　電話ウエスト四〇三七

太田永太郎

森洋貨樂並に男女用品一切

明書は御申越次第差上ます

TAMURA YAKUHO, 1708 Buchanan St., S. F. Cla

タムラ藥舗

補血　强壯

オー、オー强壯錠　一ヶ月分　金二弗

米國藥劑師　小川　龜重

電話ウエスト九五七

小川藥舗

（目錄進呈）

OGAWA'S PHARMACY, 1708 Buchanan St., S. F.

從問電話

ポルフィアア八四八一

大河原法律事務所

T. Okawara, Hearst Building San Francisco, Tel. Sutter 3127

歸國謹告

私事今般家事整理の爲め一時歸朝致し三ヶ月の後は歸桑可致候間此段廣告仕候　敬白

各位　門野普光

日本近信（六月廿六日）

貴衆兩院の主催にて　議會前庭で大追弔祭
▼首相以下各大臣等參列し　▼各宮殿下も臺臨まします

貴衆兩院にては六月二十四日午前十時より前庭に於て壯重なる尼港殉難者追弔祭を執行した開會前一時間早々登院した新代議士仙波太郎中將は佩劍憂々と廣い院内を見物してから『尼港事件は誠に御同樣殘念なことで』と簡單なる一語を漏らす永井柳太郎、八並武治、林田龜太郎等が衆目を集めて來た

▲思はぬ初顏合　せである常ならば洪笑に滿ち渡つた活氣横溢すべき各黨控室も流石にしめやか院内見物の新顏議員諸氏た互の控所は此處かと聲低く辿つて行く正十時振鈴高く響けば兩院玄關よりフロックにシルクハットの議員諸氏が雪崩のやうに前庭の大天幕張りの式場に集つて來る、有志參列席の大部分は陸海軍將校で埋まつたが會社員らしい姿も混り

▲愛國婦人會紋　服の一團も目立つ而も最も衆目を寄せるのはやはり軍服に勳章の燦然たる仙波代議士將軍が遠慮深く議員席の後方に着席、加藤子は大兩前議長に並び議會中は姿を見せぬ鍋島侯なども見ゐる軈て貴族院玄關より委員に先導されつゝ殉難者遺族三十幾名の列が慘として現はる兩院八百名の議員等粛として

▲聲を呑み迎ふ　軈て原總理以下各大臣、井上元帥、清浦樞府副議長、大谷將軍、福田參謀次長等文武諸星が前列大臣席に着く委員席には徳川、黒田上院正副議長、岡崎、關等衆議院側諸氏默々として控へる祭壇を仰げば中央を杉の青葉で圍み柱も床も白布に蔽はれすべて清げに設られてある、其右方は遺族席左方は齋主以下祭官委員着床十時二十五分突如篳篥の音粛然たる

▲滿場の寂寞を　破つて咽ぶが如き哀音を傳へると千家齋主以下奏樂裡に着床し祓詞招魂の儀嚴かに行はれる遺族席を打見れば痛ましくも面窶れせる夫人等のさめざめと只管涙に暮れたる殉難軍人の父親らしい老人の手拭もて面を押へたる者若い未亡人のジッと下唇を噛みしめて怺ゐたる

▲無邪氣の少年　が姿勢を正して端然と控へたるなど何れも參列者の心を傷ましめる斯くて幣帛神饌を供した後千家齋主の祭詞あり次いで徳川家達公貴族院を代表していと謹嚴な態度を以て弔詞を朗讀し衆議院を代表して岡崎邦輔氏の弔詞あり引續き原首相、田中陸相、加藤海相の弔詞之に次いだが此時閑院、朝香、久邇、梨本、山階、北白川の各殿下の台臨があり各員最敬禮を以て之を迎へ奉る次いで徳川家達公と岡崎衆議院代表者

▲前後して祭壇　に進み玉串を奉る次に遺族を代表して石川海軍中佐未亡人遺兒光威を抱きて祭壇に進み玉串を捧げた其悲しげな姿を見た時は參列諸員すべて眼をしばたゝいた次で首相の拜禮ありかくて神饌を撤し式を了つたのは十一時であつた祭壇は其儘となし午後二時まで一般人の拜禮を許した

●獨外交官の東京入り
ネ博士とプ飜譯官　大使は七月末着任

獨逸外交官として一番乘をした同大使館員ネキレンブルグ博士及びプラーグ飜譯官は二十四日夜八時二十五分東京驛着列車にて入京ネ博士は鼠色の背廣服に中折帽子の頗るヂミな服裝黒檀のステッキを右腕に引つ掛けて後部の車室から降りた

▲毛色のよい　小さな犬が尾を振りながら踵いて行く次でプ飜譯官は洋傘を小脇にして是も亦無雜作な服裝に中折帽を冠つて居る兩氏は犬を中にして何事をか小聲で囁きながらプラットフームを下りて行くプ氏總領事ケール氏、祕書官フォン・プレッセン男三氏は

▲七月下旬　南海丸で着任の筈だと云ふ斯くして久しく留守であつた獨逸大使館も初めて主人を迎ふるに至つた兩氏とも『一着任早々で語るべき何物も持たない、マー旅の疲れを忘れ新なる氣分になつてから』とて默々として唇を開かなかつた

●新宮内大臣　中村雄次郎男

宮内大臣波多野敬直子病氣の爲め先般辭表提出につき畏き邊りより山縣、松方、西園寺各元老に御下問ありたる結果十七日松方内大臣は沼津御用邸に伺候し宮内大臣の辭表聽許の御沙汰を仰ぎ引續き後任として貴族院勅選議員中村雄次郎男を推薦し勅裁を仰ぎ十八日午前十時卅分宮中に於て松方内大臣より左の官記を奉授傳達したり

任宮内大臣　陸軍中將男爵　中村雄次郎
依願免本官　宮内大臣子爵　波多野敬直

●後藤内閣説
關門通過客觀測

臨時議會の近づけると共に下ノ關を經て朝鮮、滿洲、臺灣等の各植民地及び九州地方の政客毎日數人上京しつゝあるが客人の談話を綜合するに尼港問題を以て國家の大問題となし普選問題喧ましきは止むを得ざる事と見做し若し現内閣にして挂冠するとせば後繼内閣は後藤男に依り組織せられ水野朝鮮政務總監内務大臣たるべく此間の打合せは既に山縣公とも出來居る模樣なれば後藤内閣の實現は單に風説に止まらざるものゝ如く觀測せらる

●呉廷芳氏脅迫狀
▼日本滯在を中止せよ

箱根宮の下富士屋ホテルに滯在中なる支那南方の巨頭呉廷芳氏宛廿一日『日本滯在を中止せよ然らざれば天誅汝の頭に下らん神戸留學生一同より』との脅迫狀舞ひ込み尚同旅館主に宛て排國の支那人を宿泊せしむるは國を賣ると同然なりとの脅迫狀を送れるものあり其筋にては特に嚴重警戒中なり

●到る處で目につく投賣の大看板
＝その内幕に二つの事情がある　公設市場でやつたのは不成績＝

財界變動の一象徴として現はれた各種商品の『投賣』『廉賣』の語は今や市場の流行語となつて來た——所謂織元暴落の綿布絹布の大投賣りに始まつて續いてはメリヤス類や洋傘類の廉賣果は猫も杓子も一樣の『投賣り投賣』の聲坐ろに市民の購買慾をそゝり立てゝ居る、眞相は兎に角梅雨が

▲持ち越せ　ないといふので灘の釀造家が東京に乘り出して酒の廉賣に上戸黨を喜ばせる話が傳はるかと思ふと又砂糖屋連は飛行機宣傳で甘黨の歡心を買ふといつた廣告を撒く某鰹節問屋の親子が産地の投賣の飛沫を喰つて發狂したといふ悲劇も傳へられて來る東京府市場協會の大橋理事は云ふ『何樣投賣大流行の世の中だがその中にも三つの種類があり

▲金融逼迫　の爲め即ち現金欲しさの投賣り、本當に値段が下落した廉賣、投賣りの爲めの投賣廉賣せんが爲めの廉賣などの投賣が第一に屬して居りそれである産地の生産者や問屋他の二つは市中の小賣商人のやつて居るのがさうである前二者は購買者側から云へば非常に結構な事であるがこの氣運に乘じて投賣をせんがために特に投賣の品を仕入れて賣出し以て暴利を貪らんとする一部商人の

▲欺瞞手段　には細心の注意を以て臨まなければならぬ府の公設市場は主として日用必需品を賣つて居るから未だこの流行投賣との交涉はないが試みに中澁谷、新宿、白山の三箇所で生産者の信頼に依つて洋傘メリヤスと木綿の廉賣をやらして見たが其成績は好くなかつた自から生産者が出て來てやるにしても

▲生産原價　を標準として決して夫れ以下では賣らないから何うしても市中で問屋や小賣商が値を構はずに賣るのに比して賣行が惡い樣である目下各方面の鑵詰屋から投賣をやらせて呉れと申し込んで來て居るが公設市場に於ける投賣はモウやらせないことにして居る今云ふ鑵詰は輸出が止まつたところへ金融逼迫に遭遇したものだから一番に弱つて居るやうだ』

春洋丸の無線電信

七月二日皇太子親しく宮中皇靈殿にて平和克復御報告の御儀を行はせらる△原田十衛下院全委員長に當選す△中隊長關本新助は多數の部下を殺し申譯し割腹自殺す△七月三日上下兩院本會議開かる首相外相陸相の施政演說あり質問戰に入る我政府は尼港事件善後策につき交涉せ（電文不明）サガレン[illegible]を占領し浦鹽とハバロフスクの方危險につき駐兵する旨聲明

●尼港犠牲者行賞

尼港戰死者行賞は七月二十三日左の如く發表せられたり（陸海軍は將校以下氏名略す）

△陸軍側戰死者

三級旭日小綬章	歩中佐	石川正雅
五級旭五等	歩少佐	水上尚
五級同	同	後藤忠三
五級同	歩大尉	横鎗英治郎
五級旭六等	同	塚本正一郎
五級同	歩中尉	引地明
五級同	同	倉持百助
五級旭六等	二等軍醫	石川省三
五級旭五等	三等軍醫正	内田貞藏太
五級旭六等	歩大尉	河本蕃雄
七級旭七等	二等主計	高内雅夫
七級旭六等	歩少尉	小泉傳藏
七級旭星光	歩少尉	田山榮四郎
	憲少尉	山野井祐三郎

△海軍側戰死者

三級旭日小綬章	海軍中佐	石川光儀
四級旭四等	同	三宅駿五
五級旭日小綬	機關少佐	紳原鈴
五級同上	主計少佐	中村楠雄
五級六等旭日	軍醫大尉	清田充
五級五等旭日	海軍中尉	長立然
五級五等旭日	機關同	佐藤清八

△領事及同夫人

單光旭日章	領事	石田虎松
六等寶冠章		石田うらき

●外務省の一部更迭

武者小路政務局第二課長白國公使館轉任に伴ひ左の更迭あり

政務局第二課長兼第三課長　外務書記官　青木新
佛國在勤を命ず（各通）　外交官補若杉要△同張間利春
支那同上　同上　深田榮次郎
瑞典國上　同上　黒澤二郎

●愛知醫大學長新任

廿二日左の補任ありたり

愛知醫科大學長兼愛知縣立醫學專門學校長に補す　醫學博士　山崎正董

●山川女史講演

山川菊榮女史の入洛を機として京都唯一の文化運動團體なる六日俱樂部主催で二十四日午後七時から同市丸太町川端教育會館で講演會を開く同女史は『婦人問題』に就いて荒畑寒村氏は『社會問題』に就いての蘊蓄を披瀝する筈

■雜俎■

穏田の神樣として山縣公の寵遇淺からぬ飯野吉三郎氏は世間から怪行者だの山師だのと取沙汰されてゐることを痛く氣にしてゐると見え『俺は世間から誤解されて困る』と云つてゐる▲過般の事湯ヶ原の別莊に行くと此の土地の人々が穏田の神樣が天を翔け廻るなどゝ信じ村中見物に來たといふ笑話がある▲其の神樣も今度のパルチザンの虐行は有史以來の國辱だとて穏田の自邸でパルチザンの藁人形を造り戰死者の靈を慰むべく祈禱をした末きらめく一刀を揮つて兩斷したので參詣した戰死者の遺族等は有難がつたさうだ▲此の國辱に酬いる爲には神樣の所有にかゝる樺太の金鑛を獻納しても復讐せねばならぬと意氣込でゐるさうだ

金曜日の桑港市場（七月十六日）

●各種の葡萄を出荷
▲瓜が出荷減

▲葡萄が好値　本日桑港市場に各種葡萄の出荷を見たり南加コーチユラ平原より引續きマラガ種二百七十二クレート出荷あり其他北加ウインタースよりタムソンシードレス及びファーナンプルーの兩種出荷ありたるが市價は何れも強氣にてシードレス及びマラガの兩種は殊に需要多く品質も良かりし爲め市價高く最高四弗臺を稱へたり

▲中加瓜出荷　帝國平原産のキヤンタロープに代りてターラック産百九十六クレーツ本日出荷されたるが市價は恢復し最高三弗七十五仙臺を突破したりされど一般に未だ未熟にしてサイズの小型なるは遺憾なり帝國平原産のものは市價引立たず殊にフラットは弱氣を示めせり西瓜も多量に出荷あり過剩にて値段引立たず

▲コーン騰貴　グリーンコーン品薄となり市價騰貴し五弗より六弗臺を往來するに至れりスコワシは相變らず品過剩にて荷動き尠なし

▲セロリ好値　本日アラメダ地方より新鮮のセロリ出荷あり値段もよく一クレート七弗臺を稱へたり

▲蕃茄が過剩　最近マーセドよりトメトーが多量出荷されこれが爲め市價も下落したり中加地方よりはピーチ千百二十一箱及びフキッグス四百八十六箱出荷あり中加地方の青果の出荷が漸次旺盛と爲りたり又昨日レモンが二十五仙方の下落を來たしたり

▲苺が保合　苺がトラック百四十二チエスト、エキスプレス七十チエスト半出荷されたるが好値にてあり、ローガンベリも市價氣分恢復したり

■果物類

▲グレープ　一クレート南加産マラガ三弗半より四弗仙北加産ファーナンプル一弗二十五仙タムソンシードレス三弗より三弗半
▲ベーヤ　一封度五仙より六仙一箱一弗五十仙上等一弗半より二弗
▲プラム　一箱クライマン七十五仙より一弗廿五仙ツラゲデークレート一弗五十仙より二弗フォルモサクレート一弗五十仙より二弗二十五仙
▲ピーチ　ラグボックス一弗半より一弗七十五仙一クレート（四バスケット入）八十五仙より一弗五十仙大バスケット入七十五仙より一弗廿五仙
▲フイツグ　一クレート黒箱一弗廿五仙ダブル箱二弗より二弗半
▲オレンヂ　箱バレンシヤ四弗より五弗上等六弗
▲レモン　箱二弗廿五仙より三弗半上等四弗
▲グレープフルーツ　一箱三弗半より四弗
▲アップル　樽て四テヤにてニユータウンピピン三弗五十仙新もの小箱一弗五十仙より二弗廿五仙サンノゼ一箱二弗半ツノマ二弗五十仙より三弗アイルトン一箱二弗大バステット入廿五仙より五十仙
▲アプリカット　一封度四仙より七仙一クレート一弗廿五仙より一弗七十五仙ラグボックス一弗廿五仙より二弗
▲チエリー　ブラック一封度八仙より十二仙ローヤルアン一封度十仙—十二仙チエリアプラム一クレート箱一弗オレゴンチエリー（レッド）一封度十仙より十二仙一ドロア一弗五十仙より一弗七十五仙（ブラック）一封度十七仙半より廿仙一ドロア二弗より二弗五十仙
▲ストロベリー　藤村及サンタクララ郡等の沿岸地方一ドロア舊バスケットもの七十五仙より九十仙標準バスケットもの八十五仙より一弗十五仙上等一弗二十五仙キヤナリ行一封度十四仙
▲ラスベリ　一ドロア（十二オンス入）七十五仙同（八オンス入）六十仙
▲ブラックベリ　一ドロア小バスケット四十仙より五十仙大バスケット六十仙
▲ローガンベリ　一ドロア（十二オンス入）六十五仙—八十五仙（八オンス入）五十仙より六十仙
▲グースベリ　一封度五仙より十仙
▲カーランツ　一ドロア五十仙

■野菜類

▲新コーン　一袋五弗より六弗
▲ハネデユー　一クレート一弗七十五仙より二弗
▲キヤンタロープ　一クレート帝國平原産ポニース二弗より二弗半スタンダード二弗半より三弗フラット七十五仙より一弗ターラック産ポニース二弗七十五仙スタンダード三弗七十五仙
▲ウオーターメロン　一封度二仙半より三仙
▲スクワシ　サクラメント一封度十仙より十五仙五十仙より七十五仙上等一弗イタリヤスコワシ七十五仙より一弗
▲ポテト　一封度ナンバーワン五仙より六仙半ナンバーツー三仙より五仙
▲甘藷　一パウンド新もの十仙より十五仙
▲ペツパー　一パウンドベル十二仙半より十五仙チリ七仙より十仙マーセド（ベル）一箱一弗
▲胡瓜　一クレート五十仙より七十五仙ラグボックス一弗より一弗五十仙南加一弗より一弗廿五仙
▲エッグプラント　一封リビングストン十仙より十二仙南加五仙より十仙
▲キヤロット　新一袋二弗より二弗半
▲ガーリック　新十仙より十五仙
▲トメト　南加一クレート一弗より二弗マーセド一クレート七十五仙より一弗半ラグボックス一弗七十五仙より二弗
▲アニオン　一袋赤七十五仙より一弗黄九十仙より一弗廿五仙
▲ネギ　一箱五十仙より一弗上等一弗廿五仙
▲ピース　一パウンド三仙より五仙上等七仙
▲ビンズ　一パウンド黄四仙より五仙青六仙より九仙上等十二仙ライマ八仙より九仙
▲セロリ　アラメダ一クレート七弗
▲レタス　クレート藤村サンノゼ及河下七十五仙より一弗廿五仙大クレート二弗半より三弗
▲ルーバーブ　箱一弗五十仙より二弗
▲バター　五十九仙半
▲鷄卵　上等五十九仙エキストラプレッツ四十七仙半アンダサイズ卅五仙

佐賀の夜櫻　　悟道軒圓玉演
【八七】人間の體で武器を試す

高木三平はチヨロリ岩崎を欺いた、蟠龍軒はそんなこととは知らない、全く岡部美濃守が自分を抱へるものとのみ思つてゐる岩『三吉や蛟龍池中の物ならずと云ふ事がある、龍は何時までも池の中に入つて鮒や鯉と交はる物ではない、龍は時が來ぬ故そんな物と一緒に池にゐるが、一度その時機到來すると風を呼び、雲を起し水を上げて昇天する、今度俺は岡部の指南役になる、食祿は三百石、どうだ、今まで拔刀を見せて齒磨を賣つてゐたが、それは世を渡る一つの方便、愈よ出世をする時節が來たナ』三『それはお目出度うムいます、親方が出世をすれば私も出世をしますから』岩『さうだ、縁あつて俺の所へ奉公した貴樣、家來にして大小をさす身分にしてやる』三『それは有難い、やはり小僧の三吉と云つて、御家來になりますか』岩『小僧と云ふ苗字はねえ、貴樣の生は東海道掛川だ、そこで掛川三吉と名乘れ』三『成程、掛川三吉、侍ひらしくなりましたね親方』岩『これ〳〵齒磨を賣つてゐる時は親方と呼でも好いが、武家になつた上は親方なぞと申すな、先生と云へ、さなくば旦那樣と云へ』三『何だか云ひ憎いや、親方は口癖になつてゐる、然し貴下はもう〳〵偉い方だから世の中へ出たンで、龍が天上をするやうなもの、私も龍でムいませうか』岩『さうだな龍とは大層な違ひ、然し鮒には貴樣は鮒のやうな物だ』三『鮒と髯も生ねてゐますから龍の樣な形はして居ります』岩『さア〳〵酒が來たら前祝ひに飲むかな、貴樣も何ぞ口に合ふ物を求めて來い』三『有難うございます、牡丹餅と團子を買つて來ます』蟠龍軒は喜んでゐた、高木三平はすつかり彼を欺して、伊東惣太にこの事を告げ、奴を中邸に引込んでおみやに敵討をさせるつもり、その仕度をいたし且つは家中の若侍に向ひ、おみやが蟠龍軒を討果した後、貴下方の腰の物の切味をお試しなさいと申入れた、一同大喜び泰平の今日、人を斬る事は出來ない、それが人間の體で武器を試すとは實に有難いと敵討當時を待つた三平は九月の中旬、駕を釣して時刻は朝四つ頃宇田川町の岩崎の浪宅に參る、三『先生は在でござるか』岩『これは〳〵高木氏か、さア〳〵此方へ、コレ三吉、何をいたし居る、コレ猫の髯なぞを拔くな、つまらぬ惡戯をする奴だ、それは家主の飼猫であらう、あの婆アに叱られるぞ、お茶を差上げろ』三『イヤもうお構ひ下さるな、所で兼て申上げた通り、愈々先生のお手の內を試みて指南役に致すと殿樣の仰せ、ホンの劍法の型だけお示し下さればそれにて宜しい、又拔刀を一手二手拔いて頂きたい、早々中邸へ御案内をいたします』岩『あゝ左樣か、然らば御同道いたす』三『お差支へもございますまいが、これは當座のお遣ひ棄て』と五十兩出した岩『これは千萬忝ない、ちよつとお待ち下さい、簞笥より衣類を出し著替へて參ります』出て行つたが、暫く經つと紋付の著物に上下を著け、大小も立派な物を帶して來た、これは表の佐野屋と云ふ質屋から出して來た物です、死出の晴裝束にならうとは氣が付かない岩『表に駕がござるが』三『あれは先生の召します乘物にござる』岩『それは〳〵御丁寧な事、さア三吉、一緒に行け、貴樣も袴を穿いて羽織を着ろ、コレ〳〵何だつてその高下駄を持つて參る』三『それでも親方は拔刀を拔くさうで』岩『馬鹿、齒磨を賣りに參るではない、今日はただ二三本振刀を見せて、後で劍術の型を見せれば好い、そんな高下駄は置いて行け』云ひつゝ三平を先にして我が家を出た、隣の内儀さんは、岩崎の裝を見て驚いてゐる。

御禮廣告

故義兄　植武清太郎　義不慮の災難にて帝國平原に於て死亡致候節は同地[illegible]知の御同情と御盡力に預り葬送の際は態々御會葬且つ香奠香花を賜り難有奉鳴謝候遠路歸宅早々御禮伺洩れも有之可申と存じ乍畧儀以紙上厚く御禮申上候　敬具
七月十日　フロリン
義弟　田中友吉
妻　田中セキヨ

父　備　儀病氣の爲め歸國療養中の處去る六月七日郷里に於て死去仕候間此段生前厚知諸君へ謹告仕候追て來る七月廿六日は故人四十九忌に相當するを以て同日午前八時桑港佛教會に於て法會相營み可申候
大正九年七月十七日
男　一ノ瀬實
親戚　三輪肅晴
同　大河原富太郎
同　小川與市
友人　内藤萬藏
同　酒井喜多市

御禮廣告
故妻　きぬ　儀葬送の節は御多忙中態々御會葬被成下且つ多分の御香料を御贈與に預り奉深謝候就ては一々拜趨御禮可申上筈に候へ共取込中乍略儀以紙上右御厚禮申上候　敬具
七月十二日　フレスノ
夫　藤野榮吉
長男　同　辰次郎
友人　中川　岩口　松本

御禮廣告
三男　正雄　儀永々病氣中は多大の御同情を以て度々御見舞被下候のみならず去十一日葬送の際は御多忙中にも拘らず御遠路態々御會葬被下且香奠を賜り御厚情忝く奉謝候一々參堂御禮可申上筈の處取込中其意を不得乍略儀以紙上御禮申上候　拜具
十二日　サンノゼ
父　西田彌市
母　トメ
兄　一雄
兄　實
親戚總代　安田國太郎　渡利豐一　西川太郎一　今本茂太郎
友人總代　井上佐平　山藤庄一　三田道松　森廣伊太郎　清山歌二郎　川原岩松

鮮魚　食料品一切　海陸商會
桑港ラグナ街一六一一　電話ウエスト四五〇五

大阪朝日　取次　37 Beideman St., San Francisco, Cal.

最新刊

小說日米戰爭未來記	樋口麗陽	一、五〇
山水處々	田山花袋	一、六〇
浪六先生奇人變人錄	よた六	一、八〇
啄木全集（第三）書簡評論感想	石川啄木	二、〇〇
大膽	栗山 碧瑠璃園	二、五〇
四季の文章修行	水野葉舟	一、二〇
混沌より統一へ	田部重治	一、五〇
クロポトキン 革命家の思出	大杉榮	三、三〇
文化主義と社會問題	桑木嚴翼	三、二〇
默阿彌脚本集（第二）	河竹糸子	三、五〇
最新算術問題通解	東京數學院	二、三〇
妊娠より分娩まで附無痛安產法と受胎制限法	高橋、伊藤	二、〇〇
改訂續金色夜叉	長田幹彥	二、〇〇
君と別れて松原ゆけば	奥野他見男	一、九五
經濟史研究	本庄榮治郎	五、二〇
賣笑婦の研究	山田わか	一、六五
朝の影	廣津和郎	二、三〇
心靈の輝き	新城和一	二、五〇
縮刷哲學綱要	桑木嚴翼	二、五〇
醉ざめの悲哀	松崎天民	五〇

羅府東一街二五〇　電F二五九九五
博文堂
250 E. 1st St., Los Angeles, Cal.

氣候の加減に非ず
常に倦怠を感じ氣力減退せる時は氣候の加減なりと思ふ勿れ若し腸が健康なれば夏の暑さも恐るゝに足らずFoley Cathartic錠は腸の疾病を治し滯留せる瓦斯を除く從つて胃の働きも調節さる到處で販賣す（七の三）

食料品雜貨　ます金商店
ポスト街一七九九七　電話ウエスト四二一一

HOTEL FUJII
423 Maynard Ave. Seattle Wash.
藤井旅館
妻君御親族御朋輩御呼寄の際は前以て御通知被下候へば上陸に關し必要なる事項早速御返事可申上候
シャトル市メーナード街四二三
煉瓦造支館二棟タコマ及キヤマ旅館各二百室最新設

株式會社　新亞細亞商會
和洋食料品雜貨商
桑港ポスト街一六五九　電話フイルモア二七九三

觀光團員募集
十一月十九日さいべりあ丸にて出發御通知次第趣意書送呈す
桑港旅館組合主催第七回
東洋觀光團　申込所組合旅館

井本旅館　サウスパーク一〇四　電話ダグラス三五三
防長旅館　サウスパーク一〇三　サター八五〇一
日本ホテル　ラグナ街一五五一　ウエスト三二一五
日米ホテル　ブッシュ街二〇一八　フイルモア四四六
北米旅館　アキヤナン一五〇　ウエスト三二二
田村旅館　パシフイック一四〇　ガーフィルド二二六
近江屋旅館　サウスパーク一〇八　ダグラス四八九八
加州ホテル　ストクトン一〇二九　ダグラス三一二三
名古屋ホテル　ポスト街一七五九　フイルモア三三
南海屋　ゲリー街一五二三　ウエスト六九三九
熊本屋　サウスパーク一七　カネー二七二九
山口屋　ジヤクソン街　カネー二四八七
福岡屋　サウスパーク一二　カネー二七一三
富士ホテル玉城館　ブラント街　カネー一三〇五
永本旅館　サウスパーク三　サター八六一
安藝ホテル　ポスト街一六五一　ウエスト六二一
紀の國屋　アキヤナン一六三　ウエスト五四六
ミカドホテル　ポスト街一七三四　ウエスト一九九一
エビスホテル　アキヤナン一六三一　フイルモア一九二一
廣島屋　ポスト街一六三二　ウエスト九四八

桑港旅館組合船客送迎事務所
406 Pacific St., S. F.

FOR AMITY BETWEEN
AMERICANS AND JAPANESE

The Japanese American News

ENGLISH SUPPLEMENT
SATURDAY, JULY 17, 1920 No. 7427

The Congressional Investigation.

Following is a liberal translation of an editorial in Japanese published in the Japanese American News last Tuesday:

THE Congressional committee investigating the Japanese problem in California held its first hearing in San Francisco on Monday. Senator James D. Phelan, Colonel John P. Irish and others testified. Soon after this hearing the committee left San Francisco for Sacramento, and it is reported it will be there for some time for further hearings. Then the committee will return to San Francisco to continue here.

In Senator Phelan's summing up of the Japanese problem in California we find nothing very different from what he has been saying for a long time. Although he says his statements have been "personally verified" by him and are the result of "special investigation conducted by himself," the facts in most instances are not correctly presented and not a few statements parading as fact are bald fiction.

If, for hypothesis, we were to admit Senator Phelan's statements as facts, we would find his interpretation of those facts swayed by his prejudices and preconceived ideas and greatly exaggerated and colored. But, as usual, we have paid little attention to his utterances until today. His statements at the hearing of the Congressional investigating committee we feel in duty bound to correct where correction is necessary.

Senator Phelan disputed the well founded belief that Japanese are responsible for the cultivation and reclamation of much land that otherwise would be worthless. "They are wasteful and unscientific farmers," he said, "and have worked out much of the lands in the Delta region, where they have operated. The Sacramento Valley land is the richest in the world. It happens that a company of American men has been formed to reclaim some of the land ruined by them."

How the Congressional committee will interpret Senator Phelan's testimony we cannot say, of course, but if anyone leaves the cities and goes into agricultural districts and sees for himself, we are sure he will find things the exact contrary to Senator Phelan's statement, unless he is a man of a nature who regards black as white. No man can lay claim to being scientific and efficient unless he can point to good results.

If Senator Phelan would reverse his statements they would be found to be true. Governor Stephens' statement of the Japanese situation is closer to the fact.

Again, Senator Phelan states: "If the Japanese occupy the soil they exclude the white element, the bulwark of our civilization, our customs, our religion, our national life. Mere productiveness of food materials, which is the big boast of the Japanese, cannot offset the loss of the white population which they displace. They are a nonassimilable people. Further, they are an unmoral people. They do not understand Western morality as we conceive it."

We are extremely sorry that we haven't time to give a series of lectures on ethics and morality here. Morality is not the possession only of the Western people. There may be a slight difference in its outward cloak. But the fundamental principle of ethics and morality is no different, whether in the East or in the West, past or present. We feel it is not necessary to refer to the scholars to prove this assertion. Whatever basis he has for such conclusions are hard to divine.

Further, we hardly believe he is describing this thing seriously. Why doesn't he say boldly: "We want to exclude the Japanese simply for the sake of exclusion," without advancing any such reasons as he gave the Congressional committee, which, to our way of thinking, were contradictions, far from the fact.

Colonel John P. Irish, who also was present, was severely criticized by Senator Phelan. The latter said: "Irish has always aligned himself with causes opposed to the views of the people. I don't think he has lost anything by it, with the possible exception of the loss of public estimation."

It seemed to us that Colonel Irish was not given sufficient opportunity to be heard except to correct some of Senator Phelan's statements regarding his position. Which was unfortunate for him.

In conclusion we hope that the Congressional committee, which has declared it will investigate the situation impartially and justly, will proceed with this investigation and see both sides of the question so that the proper conclusions can be reached.

Concerning Consul-General Ohta.

The following is a free translation of an editorial in Japanese, published in this newspaper last Wednesday:

THE BULLETIN, in an editorial of July 13, under the title, "Japanese Anarchists," said: "In view of the current activities of Governor Stephens and the Congressional committee of investigation into the Japanese menace in California, the Japanese residents of San Francisco seem to have chosen a particularly unfortunate moment for falling out with their consul-general here. The Japanese consul-general seems to have been equally unfortunate in the course he has taken of seeking to elude the criticisms of his fellow countrymen by describing them as socialists and anarchists. . . . But if, in addition to the other respects in which they are liable to become a menace, there is the assurance of his imperial majesty's consul-general at San Francisco that his subjects here are anarchistically inclined, the course of those who would advocate resisting their immigration becomes materially strengthened."

The Congressional committee is in California making a special investigation. The general outlook of the Japanese problem seems to be far more serious than heretofore. At such a moment to have such a controversy as this is exceedingly unfortunate. But this unfortunate moment is chosen by Consul-General Tamekichi Ohta.

About a month ago Consul-General Ohta demanded a reorganization of the San Francisco Japanese Association, of which Mr. K. Doi was president. Mr. Doi and Mr. K. Kanzaki, general secretary of the Japanese Association of America, told Mr. Ohta they considered it inadvisable to make such a move in this grave crisis. The consul-general, however, insisted a reformation was necessary, declaring it had no bearing on the general Japanese situation, or, if it did affect it to some extent, it did not matter.

This demand for a reorganization of the San Francisco Japanese Association was meant to exclude some of the officials of the organization and resulted in the resignation of Mr. Doi and the presentation of a letter from the San Francisco Japanese Association to the Japanese Association of America. A public mass meeting was held and resolutions passed demanding the recall of the consul-general. The consul-general retaliated by declaring the members of the association were anarchists.

This review of the controversy shows the person responsible for raising such a question at this unfortunate moment is none other than Consul-General Ohta. Consul-General Ohta cannot escape the responsibility.

Concerning his charge that the members of the association are anarchists, we have to say that we are firmly convinced there are no anarchists among the Japanese in America. This statement of the consul-general's was a bolt out of the blue. We have scarcely a word to fit his foolishness in making such utterances through the American papers.

We thought he would retract his statement, acknowledge his fault and apologize for his imprudent and improper use of his office to the public, Japanese as well as American. But to date he has not done this and we are forced to conclude that he really believes the 1000 persons of Oakland and San Francisco who attended the mass meeting really are anarchists.

Of course, the majority of impartial Americans would not believe Consul-General Ohta's accusation. They would not regard the Japanese in America as anarchists; on the contrary, they would laugh at his ill advised utterance.

However, in the case of the anti-Japanese party it is entirely different. They are always looking for some fuel to feed the fires of their anti-Japanese activities, and they surely will make use of his statement. And in so doing they may be relied upon to quote none other than Consul-General Ohta as authority.

Thus we see that Consul-General Ohta has betrayed the Japanese in America. Before this thing goes any further we hope the consul-general will realize his responsibility and will act accordingly. If he does not troubles a-plenty may be looked for.

If necessary we will ask the American authorities to investigate this thing and we will urge the Japanese government to recall the consul-general from San Francisco.

THE "Japanese menace" in California is most distressing. There are 60,000 Japanese, more or less, in this State, and some four millions of population. The proportion of Japanese to all other nationalities, including Americans, is, according to the rules of arithmetic, rather insignificant.

Not the least distressing phase of the situation is that most Californians refuse to be aroused by the alarms sounded by the Japanophobes.

THE ART OF WRITING.

WILL the characters employed by the Japanese to express the written word, adapted from the Chinese and employed for hundreds of years, be supplanted some day by the characters of the English alphabet? Many scholars in Japan today believe that time is coming.

The art of writing in China always has been a special manifestation of erudition. The art of making Chinese characters long preceded the art of painting. The secret of manufacturing brushes, suitable pigment and a special kind of paper is 2000 years old, and out of the discovery has grown the elaborate system of writing.

The early development of the art of writing included the ancient forms called ko mon; the seal characters, or ten sho (sho meaning writing); the formal fashioning, rei sho; the flowing, graceful manner, so sho; a rapid style, gyo sho; and the standard kai sho. The Chinese assert—and believe—that all their characters and ideographs had a divine origin, and for that reason the art of skilfully reproducing these characters always has commanded their profound reverence.

The earliest characters (ko mon) were pictorial and crudely represented objects; the seal characters (ten) were supposed to resemble the ravaging tracks of the bookworm; the rei forms suggested the sentiment of carvings on metal or stone; the so suggested grass fashioned characters; gyo approached a running hand; all more or less acquired the standard kai.

A sentiment in the writer corresponding to the nature of the characters executed and invoked at the time of writing was necessary to reproduce the different styles. In making the seal characters the brush must move with the deliberation of a boring insect devouring a leaf. The writer employing the rei sho style must feel the brush to be a graving tool and that what he writes is engraved on stone or metal. This difficult style was practiced by some professional writers almost to the exclusion and neglect of other styles. In the grass characters the feeling or sentiment accompanying the brush stroke must be easy, gentle, curving and flowing.

The written characters are supposed to be invested with living strength or vital force. To that end the brush stroke is executed in accordance with fixed rules. The flow and color of the ink also are the subject of regulation. There is a rule determining the order of the strokes which go to make up a character. Some characters are composed of a score or more of lines, each of which has its proper place as well as fixed sequence in which it must be made.

The Chinese always have attached the greatest importance to their writing art, and have fairly worshipped those who were most proficient therein. Ogishi, greatest of the Chinese professionals, was said to endow his characters with such force, energy and vigor that they were believed to possess life. So thoroughly is the nature of the writer reflected in his characters, in the peculiarities or idiosyncrasies of his brush stroke, the color of his pigment and other hallmarks that the Chinese refuse to keep the writings of a man disclosed to be unworthy. Nevertheless, all written characters are held in such respect that any writings picked up in public are placed in iron receptacles and reverently incinerated twice a year.

When Chinese began to paint the principles governing manipulation of the brush and the strength of its stroke, so essential in writing, were applied to and became characteristic of the painting art. As the lines composing the characters were written in fixed and regular order, the component lines of painted objects were similarly executed. The artist invoked even the forms of the written symbols to produce pictorial effects. The disposition of the leaves on the drooping branches of the summer willow tree is recalled in stroke form of the Chinese character hitsu, meaning "positively"; another character, meaning the "heart," similarly suggests painting the stamens of the orchid.

Like the writing brush and its technique, the ink pigment used in writing was employed at the very beginning of painting and every canon governing its uses in the writing art equally applied in the painting of pictures. To the artist's use of the ink without other color, when art first originated in China, is doubtless to be attributed the preference of the connoisseur for what the Chinese call bokugwa, or ink painting—sumie in Japanese.

It can be understood from the dependence of the art of painting upon the earlier art of writing that the art worthy of a Chinese painting has always been judged and determined by applying to it those fundamental rules which govern Chinese writing.

The "spiritual manifestation" principle in painting refers to the quality of elevation inseparable from all great art. It was derived in the first instance from the art of Chinese writing.

The four cardinal principles of art firmly established, the art of Chinese painting was elaborated by introducing various formulas of Chinese philosophy, such as the male and female, or contrast, called in yo; the law of heaven, earth and man, or ten chi jin, which applied to composition; rules were devised for ledges and ridges, and a system of dots was devised for shrubbery, trees, near distant effects and the like.

Eight distinct ways of applying colors were devised. Many artists of the East employ colors sparingly, others not at all. The most critical connoisseurs of art prefer the uncolored painting, because the ink pictures disclose more successfully the individual and subtle in the work.

Schools of painting were developed in Japan which differed in methods of composition and execution as well as in the selection of subjects, but retained the fundamental principles. Thus there is the Buddhist school of Kaneoka with its saints and its religious scenes; the Tosa school, dealing usually in nobles and court scenes, with a free use of color; the Kano school, devoted to Chinese scenery and sages, with spare use of color; the Okyo school, with birds, flowers and landscapes painted with or without colors, and the Ukiyo school.

In the Kano landscape the sentiment which the artist aims to suggest is of paramount importance: for instance, a spring flower is emphasized by its cheerful aspect; a summer afternoon by its drowsiness; a snow scene by its loneliness; a winter gale by its violence. This sentiment is called kokoromochi and the Kano artist secures it by subordinating in his picture the forms of trees, people or animals to the expression of the whole scene. He does this by feeling the nature of what he depicts and conveying it into his work through the medium of the brush stroke, the skilful way in which the pigment is applied with its contrasts of light and shade, sheen and shimmer, and the manner in which the ink is made to flow and float in translucent waves over the surface.

After a thorough apprenticeship in the Kano school, Okyo concluded that better results could be achieved through more realism and less idealism, and instead of studying nature from the impressionistic side he and his followers sketched carefully and accurately reproduced birds, flowers and the like. While superior in perspective, the Okyo school of landscape painting lacks that largeness of treatment and charming sentiment of reverie found in the work of the old painters of China and the Kano artists of Japan.

Not only does a Japanese painting impress with its vital brush force, imparting vigor to what it touches and suggesting the very nature of the thing depicted, but it reflects the spirit of the artist at the time of execution. If executed for money or other consideration or from sordid motives, such painting will disclose its blemish in the character of the brush stroke, color of the ink and the manner in which the subject is presented. This is a canon of art and a conviction among all Oriental painters. Seldom did the great Japanese artists sell their paintings. Those who did were given a distinguishing name. Many of the great artists were Buddhist priests who cultivated the highest ideals and lived in monasteries or were attached nominally to the households of daimyos or other dignitaries or were military retainers of the samurai class. All their material needs were provided and they painted from love of art.

BUSHIDO.

By DR. INAZO NITOBE.

CHAPTER VIII.

LIFE being regarded as the means whereby to serve his master, and its ideal being set upon honor, the whole education and training of a samurai were conducted accordingly.

The first point to observe in knightly pedagogics was to build up character, leaving in the shade the subtler faculties of prudence, intelligence and dialectics. We have seen the important part aesthetic accomplishments played in his education. Indispensable as they were to a man of culture, they were accessories rather than essentials of samurai training. Intellectual superiority was, of course, esteemed; but the word Chi, which was employed to denote intellectuality, meant wisdom in the first instance and placed knowledge only in a very subordinate place.

The tripod that supported the framework of Bushido was said to be Chi, Jin, Yu, respectively Wisdom, Benevolence and Courage. A samurai was essentially a man of action. Science was without the pale of his activity. He took advantage of it in so far as it concerned his profession of arms. Religion and theology were relegated to the priests; he concerned himself with them in so far as they helped to nourish courage. Like an English poet, the samurai believed "'tis not the creed that saves the man; but it is the man that justifies the creed."

Philosophy and literature formed the chief part of his intellectual training; but even in the pursuit of these it was not objective truth that he strove after—literature was pursued mainly as a pastime, and philosophy as a practical aid in the formation of character, if not for the exposition of some military or political problem.

From what has been said it will not be surprising to note that the curriculum of studies, according to the padagogics of Bushido, consisted mainly of the following: Fencing, archery, jiujutsu or yawara, horsemanship, the use of the spear, tactics, caligraphy, ethics, literature and history. Of these jiujutsu and caligraphy may require a few words of explanation.

Great stress was laid on good writing, probably because our logograms, partaking as they do of the nature of pictures, possess artistic value, and also because chirography was accepted as indicative of one's personal character. Jiujutsu may be briefly defined as an application of anatomical knowledge to the purpose of offense or defense. It differs from wrestling in that it does not depend upon muscular strength. It differs from other forms of attack in that it uses no weapon. Its feat consists in clutching or striking such part of the enemy's body as will make him numb and incapable of resistance. Its object is not to kill but to incapacitate one for action for the time being.

A subject of study which one would expect to find in military education and which is rather conspicuous by its absence in the Bushido course of instruction is mathematics. This, however, can readily be explained in part by the fact that neutral warfare was not carried on with scientific precision. Not only that, but the whole training of the samurai was unfavorable to fostering numerical notions.

Chivalry is uneconomical; it boasts of penury. It says with Ventidius that "ambition, the soldier's virture, rather makes choice of loss than gain which darkens him." Don Quixote takes more pride in his rusty spear and skin-and-bone horse than in gold and lands, and a samurai is in hearty sympathy with his exaggerated confrere of La Mancha. He disdains money itself—the art of making or hoarding it. It is to him veritably filthy lucre. The hackneyed expression to describe the decadence of an age is that "the civilians loved money and the soldiers feared death."

Niggardliness of gold and of life excite as much disapprobation as their lavish use is panegyrized. "Less than all things," says a current precept, "men must grudge money; it is by riches that wisdom is hindered." Hence children were brought up with utter disregard of economy. It was considered bad taste to speak of it, and ignorance of the value of different coins was a token of good breeding. Knowledge of numbers was indispensable in the mustering of forces as well as in the distribution of benefices and fiefs; but the counting of money was left to meaner hands. In many feudatories public finance was administered by a lower kind of samurai or by priests. Every thinking bushi knew well enough that money formed the sinews of war; but he did not think of raising the appreciation of money to a virtue. It is true that thrift was enjoined by Bushido, but not for economical reasons so much as for the exercise of abstinence. Luxury was thought the greatest menace to manhood, and severest simplicity was required of the warrior class, sumptuary laws being enforced in many of the clans.

We read that in ancient Rome the farmers of revenue and other financial agents were gradually raised to the rank of knights, the state thereby showing its appreciation of their service and of the importance of money itself. How closely this was connected with the luxury and avarice of the Romans may be imagined. Not so the precepts of knighthood. These persisted in systematically regarding finance as something low—low as compared with moral and intellectual vocations.

Money and the love of it being thus diligently ignored, Bushido itself could long remain free from a thousand and one evils of which money is the root. This is sufficient reason for the fact that our public men have long been free from corruption; but, alas, how fast plutocracy is making its way in our time and generation!

The mental discipline which would nowadays be chiefly aided by the study of mathematics was supplied by literary exegesis and deontological discussions. Very few abstract subjects troubled the mind of the young, the chief aim of their education being, as I have said, decision of character. People whose minds were simply stored with information found no great admirers. Of the three services of studies that Bacon gives—for delight, ornament and ability—Bushido has decided preference for the last, where their use was "in judgment and the disposition of business." Whether it was for the disposition of public business or for the exercise of self-control, it was with a practical end in view that education was conducted. "Learning without thought," said Confucius, "is labor lost; thought without learning is perilous."

When character and not intelligence, when the soul and not the head, is chosen by a teacher for the material to work upon and to develop, his vocation partakes of a sacred character. "It is the parent who has borne me: it is the teacher who makes me man." With this idea, therefore, the esteem in which one's preceptor was held was very high. A man to evoke such confidence and respect from the young must necessarily be endowed with superior personality without lacking erudition. He was a father to the fatherless and adviser to the erring. "Thy father and thy mother"—so runs our maxim—"are like heaven and earth; thy teacher and thy lord are like the sun and moon."

(*To be continued.*)

THE MORNING GLORY.

THE morning glory is the guest
Of the gentle garden grower.

Ere sun arises from his rest,
Awakes the beauteous flower.

The host, arising in the morning
Finds the guest his home adorning.

JAPANESE PROVERBS.

Diseases are the tax on ill pleasures.

* * *

Distrust is poison to friendship.

* * *

Doing nothing is doing ill.

* * *

Done leisurely, done well.

* * *

Do not judge of a tree by its bark or of a man by his exterior.

* * *

Do not halloo till you are out of the wood.

* * *

Do not draw your bow until your arrow is fixed.

* * *

Dread the anger of the dove.

* * *

Drop by drop the lake is drained.

* * *

Drown not thyself to save a drowning.

* * *

Drunken fools seldom take harm.

* * *

Every bird likes his own nest the best.

* * *

Empty vessels give the greatest sound.

* * *

Enough is a feast, too much vanity.

* * *

Envy shoots at others and wounds herself.

* * *

Equivocation is first cousin to a lie.

* * *

Even an ass loves to hear himself bray.

* * *

Every man thinks his own geese swans.

* * *

Even fools sometimes speak to the purpose.

* * *

Even sugar may spoil a good fish.

* * *

Even the dog gets bread by wagging his tail.

A Battle with the Sea.

By TOKUTOMI ROKA.

(*Continued from last Saturday.*)

THE spectators all sprang down from their elevated positions and treading on the heels of the wave, regained the parapet, from where they could watch the retreating element. It was just like playing tag with the sea. The sound of people's shouts came from both the banks of the river. Taking no account of the chiding voices, the water surged upstream in fury between stone walls, board fences and rows of people on the banks, shaking the foundations of the Fujumi bridge. It did not stop there, but running about two cho farther up, it leaped easily over a stone wall surrounding the mansion of Mr. ——— and made its force felt for some distance upstream.

JOY AND DISAPPOINTMENT.

The rain ceased, the wind went down a little and we all felt greatly relieved. Our joy, however, was short lived. The wind again began to blow a gale, this time from the southwest. Green leaves were torn from the trees and whirled in confusion, producing a humming sound by their rapidity of motion. The waves boiled and tossed their white crests, which the wind took up bodily and scattered into flying foam. Sea and sky and wind and waves formed one wild chaos. Billow after billow washed over the shore and the water rose waist-deep on the Misaki highroad and over the shrine in the yard.

In the midst of the storm the postman came running along to discharge his duty and distribute the mail, but finding it impossible to make head against the storm, he sought shelter in my lodging. The stone work at one end of the Fujimi bridge was destroyed and traffic with the other bank was interrupted. The battle was now at its height.

Sheltering myself behind a tree, with difficulty I turned my head towards the mouth of the river. As wave after wave as big as the Shojin hill dashed on the shore I could fancy that the Hakone Mountains had suddenly shifted their site to the river's mouth. I could not see what was the condition of my southern neighbors, owing to the presence of the sturdy bamboo grove. The villa of Mr. ———, which stood at the head of the sandy bank opposite us, suffered the demolition of its earth wall and the building leaned perceptibly forward. The side wall and a few pine trees had escaped destruction till now, but even as I was looking one or two mountainous waves charged the survivors, shaking the trees pitilessly and eventually, when an especially big one attacked the trees and the remaining wall, they entirely disappeared. The house alone stood its ground, but, leaning still more forward, it appeared to be only waiting for another big wave to wash it away.

The Yujintei adjacent to the villa was not saved from destruction. The repeated battering of the waves gradually demolished the stone wall at the south corner of the hotel as easily as though it had been built by children with bits of wood. A board fence which had crowned the wall, was pulled down by a single billow. A guest who had been looking on the scene from a front room of the hotel was seen running away precipitately into a back room, carrying his baggage with him. The scene reminded me of the tragic fall of the castles of Washidzu and Marune.

OUT OF ALL PATIENCE.

It seemed to me that the sea, getting at last out of all patience with man's encroachment on it domain, had burst into a rage and was now undoing all his work, which had cost him so much money and years of labor. Its booty of green pine trees, wooded doors, boards and so forth, were bobbing and struggling in the muddy water. These the sea turned into battering rams to launch against anything that resisted its force. A plucky villager named Heihachi was courageously engaged in pushing away and hauling up the debris with a long handhook, which he handled with great skill, but, at last becoming terrified by the force of the waves, he beat a hasty retreat. The sea was revenging itself to its heart's content.

A wave dashed against the front of our parapet and was about to retreat when an alarmed shout was heard at my back. "Look out! The water is coming from the rear!" A foamy current was running over the ground between the outhouse and the main building; it passed first under the verandah of my neighbor's house and then through the bamboo grove. We were attacked from the front and the rear. I consulted my watch and saw it was half past three; at half past six the tide would be on the turn. Although the comparison might be absurd, I thought my situation was similar to that of the British general at the battle of Waterloo, who, gazing from his post under a tree at the flower of the French army advancing like ocean waves, looked at his watch and muttered to himself: "The arrival of Blucher or the setting in of night."

PART III.

Suddenly the rain ceased and the wind went down a little. By and by the sky over Idzu became lighter and an outline of mountains dimly appeared over the yellow sky. "You can see the mountains opposite!" The joyful news was received with a glad shout by the people present. The shout gave me life, just as the report of the first cannon shot which was fired by the Prussian artillery against the French was music to the ears of Wellington.

The tug-of-war was over. The final charge had been the last desperate attempt of our enemy, which was at last preparing to retreat. True, the wind still blew a gale, but it seemed to get out of breath, and though the sea ran higher, if possible, than ever, it appeared to have lost some of its force. Availing myself of this moment, I hastened to the Boryuan through a breach in a bamboo fence in the rear of my dwelling. As I had expected, the damage there was not great; some branches of pine trees were torn away, and grass and flowers were beaten down to the ground. Although the high road had suffered much damage, the house stood literally intact.

After four o'clock the wind grew less severe, the clouds rolled away continuously in a northerly direction, and the azure heavens peeped through gaps in the southern sky. Fuji and the mountains of Idzu and Sagami became clearly visible, although their upper parts were still hidden in the clouds. Suddenly cicadas began to sing on the hill rising behind my lodging. The landlord, as though to show that the crisis was over, had seated himself on the parapet and was smoking his pipe, his feet washed by the waves, which still dashed with great force on the beach, while the young men, who had been so kind in helping us, were doing ample justice to the rice balls provided and chatting gaily with the landlord's daughter. The battle over, the pangs of hunger were felt by all. I first changed my drenched clothes for comfortably dry ones, and then made short work of my rice soaked in tea.

A SCENE OF DEVASTATION.

I visted the houses of our neighbors on the south and found them devastated—those on the north all had escaped, partly on account of their situation and party from the timely precautions taken. The stone wall of the villa of Mr. A——— and the board fence had been completely carried away. A pine tree, pulled up by the roots, hid its head with shame under the verandah of the villa. The roof of an outhouse belonging to a rikisha-stand was more out of the perpendicular than the Leaning Tower of Pisa; a well was totally ruined and waves were running under the floor of the rickisha-house. Mr. B.'s house, which is adjacent to the villa on the north side, had lost part of its roof, carried away by the gale, the whole of the kitchen had been washed away by the sea and was practically destroyed; a telegraph pole had fallen across the road just in front of the house and the dangling wires seemed to be playing with the waves.

The wind had died down, but the sea, which was now almost at high tide, was raging furiously. Every time that the roaring surge came plunging up the beach the houses thereabouts were surrounded by water. A lovely girl in a purple linen kimono, who had been driven from her house, was perched upon the back of a man servant and gazed blankly at the woful scene from a distance. As I was standing thus in the midst of the ruins the sun set and soon afterwards it grew lighter, as if the sun had been recalled.

What a glorious afterglow! It seemed to testify to the truth of a sentiment expressed in a Chinese poem, "The sun sets in blood after a battle." Golden light flooded the whole expanse of sky and land and purple billows roared on the ocean. Walking along the beach dotted with the pools formed by the retreating waves, which reflected the yellow sky, I gazed on the ruined houses looming black against the brilliant background and suddenly was overcome by a feeling of desolation.

Night set in and the wind sank. The sea was not yet pacified and roared and raged under the pale light of the stars, reminding me of a Japanese poem, "The howl of the gale dies away into the sound of the waves." The battle was at an end and the sea had eventually been repulsed. In spite of this no one pulled down their parapets and all remained on the alert. At one end of the Fujimi bridge torchlights were seen blazing all through the night.

PART IV.

The next day, that is, the 8th of August, I rose early in the morning. It was a halcyon day, that mocked at man and his powerlessness. I visited yesterday's battlefield and was surprised to find it even more damaged than I had anticipated; I thought I had been in the thickest of the fight, but I was soon undeceived. My part had been an easy one compared with that of my neighbors. The high road for the distance of one cho, starting from just in front of my lodging, had been converted into its original state—a beach. A villa, its foundation stones completely washed away by the waves, remained on its site in a leaning position. An unoccupied house had everything in the lower part but the bare framework washed away and was ready to topple down; the waves had washed away the earth from under a great tree and it looked like a monster octopus standing on its eight arms.

STONES TOSSED ABOUT.

Hewn stones, which had been deposited on the road, were carried away and scattered far and wide in the fields; the stone wall protecting the bank of the new reclaimed land at the foot of Cape Nakidzuru was demolished for the length of fifty or sixty ken and converted into a stony plain. The river had become very shallow at the mouth and the sandbanks there had shifted their position.

I directed my steps toward Hayama. A long row of boats which had been hauled up to the middle of the road blocked the thoroughfare. Here a number of men were assembled around a falling house and were raising it up by means of levers; there they were pushing aside confused masses of half rotten miscanthus with which a collapsed house had been thatched. Nearby a house had been stripped of all its furniture and was being cleaned from top to bottom. A landslide had occurred on a hillside, and a villa which had been built on it remained standing by the merest chance of equilibrium. There a mason was digging up from the sand huge stones of the size of the monstrous chopping boards usually seen in a kamaboko shop, and counting them one by one, while here an old fisherman was putting his boat out to sea and bitterly complaining that the storm had robbed him of twenty yen by carrying away his fish pond. People talked of nothing but the devastation caused by the storm; a big barrel of sake belonging to Mr. A had been carried away by the waves; Mr. B.'s house was no less than a cho away from the sea, and yet it was surrounded by water; all the furniture of Mr. C. had been drenched by the salt water, etc. They invariably accosted each other with: "What a tremendous storm we have had."

My landlord declared the storm was the greatest experienced during the last fourteen years.

ロスアンゼルス (十五日)

羅府と貿易 ▲會議所の大運動

羅府の太平洋沿岸に於ける一大都市となり人口に於て他の都市を凌ぎつゝあるが更に今回市に於てサンピドロ港の大改築を決行することゝなりたれば貿易地としても沿岸第一の都市たらしめんと大に此の方面に向つて運動中なるが殊に今後の目的とするは

▲東洋貿易に●●●●● して昨年テキサス及びオクラハマの兩州より東洋に向け七千五百萬噸の棉花を輸送する際當市商業會議所にては羅府港を通じて東洋に輸出すれば距離に於て千哩を短縮さるゝを以て是非共羅府港を經由せしめんと運動する處ありしが千哩遠きシャトルの方に遂に

▲鐵道運賃の低●●●● き爲め遂にシヤトル線を採ることゝなりしが本年度は是非共當市を通過せしめんと目下會議所港灣委員は協議中なるが之れを實行するにはテキサス及びオクラハムと當市間の鐵道運賃の低減をなさしめざる可からず之れ鐵道會社一個の方針にて如何ともする能はず米國政府の當局に

▲運動する必要●●●● あるより此の交渉をも開始したるが本年度は全棉花の輸出を多分羅府港よりなべすく若し之れが實行の曉は羅府貿易上の一大發達と云ふべし因に同棉花は殆んど日本へ向け輸送さるゝものなりと

日本町繁榮策に ▲活動寫眞館の計畫

當市日本人ドライダーズ組合にては十四日夜例會を催し席上日本人町繁榮策に關して協議する處ありしが目下の處之れに對する名案も案出されざるが日本人街に活動劇場の設備あれば自然に各方面より日本人を引き寄せるものなれば是非共活動館の計畫をなし此の繁榮策の一助となすべしとの說あり四名の調查委員を擧げて研究することゝなりしが他に此の外の良案あらば勿論夫れを採用するものなるが兎に角活動寫眞も繁榮の一策たるを失はざるべし

本鮪値段折合ふ

既報のブリユウ・ファイン鮪値段は會社側と漁船同盟側と約三ケ月間に亙り衝突を重ね遂に談判破裂の模樣に見はしが昨十四日に至り漁船同盟側の大讓步に依り左の如く落着したり

(一)サンピドロ港附近に於て漁獲し直接會社工場に運び來れる物は噸百廿五弗とす

(二)サンタクルーヅ島或は同程度の遠距離に於て漁獲したる物は其海上渡しにて噸百廿五弗として之を會社迄運び來れば噸十五弗を增給す

右の協定成立と共に百餘隻の網漁船は一齊に出動したるが玄人筋の說に依れば本鮪のシーズン半ばを經過したる今日以後の漁獲は大したる事なかるべしと

日本グロサリ燒失

當市東六街一二六一日本ホール・グロサリー株式會社倉庫は十五日午前五時三十分全燒の災に罹りたるが損害額約三萬弗に達せる見込なり失火の原因に付き社員の語る所に依れば多量のマッチ貯藏しありし爲め鼠の所爲又は氣候の關係にてマッチより發火したるにあらずやと思はるゝ以外原因と認むべきものなしと因に同會社は資本金七萬五千弗の日本人經營にて株主の大多數は日本人グロサリー業者にして日米人同業者間に信用ある會社なり尙ほ火災保險は相當に附しありと

●瓦斯燐愈よ不足 當市及び南加方面に於けるギャスリンは日に〳〵不足甚だしく之れが善後策に對して市交通委員は協議會を開き遊山者に對しては之れが供給をなさゞる樣なし出來得べくんば營業其他必要なるものを先とする樣なし又病院、警察、運送用の自動車トラックに對しては市より許可證を交附し必要丈を供給せしむるやにて目下不足中は二十八仙五厘の値段を以て現狀を維持すべしと

●熊本縣人ピクニック 南加熊本縣人會にては來る十八日シールビーチに於てピクニックを催す由にて午前九時北サンピドロ街の縣人會前を出發する筈

●矢島女史送別茶話會 十六日第一學園に於て開催する聯絡婦人會茶話會には平信徒同盟會及び基督敎傳道團も加はり送別茶話會をなす由

●常磐倶樂部擴張 東一街常磐倶樂部にては同部一切の財產を川福氏より倶樂部に買收し各部員の自由に遊興せしむることゝなし更に小西豐龍氏を幹事に依賴し碁會所も同部內に移し大に面目を一新したりと

●山邊氏結婚披露 ハリウードに切花業を經營する山邊楳七氏は今回山田とく子と桑港に於て結婚したれば十八日夜常磐倶樂部に於て京極開敎使夫妻媒介の下に其の披露宴を張る由

●擊劍の練習 十四日夜七時半より第一學園に於て二十餘名の同好者相集り擊劍の練習を行ひしが今後每週月、金の兩夜七時半より笹森氏指南役となり之れが練習をなす由にて何人たりとも同好者は歡迎すと

●長濱日會講演會 ロングビーチ日本人會にては十八日時局講演會を開き今井文學士の歐洲視察談其他二三氏の時局に必要なる講演ある筈

●カタリナ島無線電話 サンピドロ港より四十哩の避暑地カタリナ島と本土間無線電話の通話は愈々今十六日より公開されたるが料金は普通長距離電話と大差なしと

●同胞住宅に放火 アナハイム地方は日本人の氣受好良の土地なるに近頃排日紙の煽動的記事に影響を受けしものか同地在住中村氏住宅の床下に放火したる者あり大事に至らざる前發見消し止めたりとの事なるが時節柄注意すべきなり

フレスノ (十五日)

證明取扱規定問題

▲桑日會移牒を議す フレスノ日會幹部 桑港總領事館が在日會に宛て送附せる證明事務取扱規定の公文書は同總領事館が十有二年間自然消滅に期し居たる心得書なるものを復活して自治公共團體に不當なる壓迫を加へて米國々法の下に存立せる自治團體日本人會を拘束せんとする者なるを以て內外の情勢に鑑み日本人會の

▲健全なる發達 を圖る爲め右證明取扱規定を全然撤廢せしめ之に代へ互惠的主義を基礎とする取扱手續を定むることを至當とす之れに贊成せられたき旨桑港日本人會よりフレスノ日本人會に移牒ありたるに就き同日會幹部は本日午後八時より臨時役員會を開催し協議したる結果略贊成意見に一致せるも更に來る十八日開催の中加四個日會聯合會に提出し全部の贊成を求むる事とせり

●ツラレ日會代表者 七月十八日開催中加四個日會聯合會にはツラレ郡日本人會よりは前田寛次郎、阪本節吾、吉田正榮三氏同日會幹事等代表出席の旨フレスノ日會に通知し來れり

●フルーツ標準を一定 布郡園藝監督官ローラード氏は規則を制定してフルーツの標準を一定し其檢查を改善する爲め十六日午前十時當市シテー・ホールに於て相談會を開くに依りパッカーの出席を希望する旨の告示を產黃金バーレー各地に告示したり同會合には羅府よりも委員出席す可し

日本人調査ご注意

米國下院移民調查委員一行は近日中加地方日本人狀態調查の爲め來布するに就きフレスノ日本人會は之に對する同胞の注意書を發表せり左の如し

米國議會派遣の東洋移民狀態調查委員一行は過般桑港に來着以來各地に於て視察調查中に有之兩三日中には當地方をも巡視し郡部數ヶ所へも出張し親しく日本人の狀態を調查する事に相成居候に付在住同胞は此際悅んで同一行を歡迎し種々調查の便宜を計ると共に米國人の風俗習慣を重んじ特に家庭の衛生兒童の取扱婦人の勞働等を愼み同胞の體面を汚すが如き事なき樣右通知旁々御注意致候也

●大野日幹櫻府行 下院移民調査委員一行の日本人調查の模樣視察の爲めフレスノ日會幹事大野時郎氏本夜櫻府行

●增田氏會計人開業 增田恒造氏は事務所を勸業銀行の上に置きパブリック・アッカウント開業の由

●安孫子社長出發 昨日來布せし安孫子本社長は本日午後五時リビングストンに向け出發

●仲裁機關の設立 今回マックナイト氏數氏の發起に依りフルーツ勞働者と其雇主との間に起る苦情紛擾を解決すべき仲裁機關としてフレスノ・フルーツ・シッパー・リーグなる組合設立され本據を布市に置き存立期間は五十年なりと

サンヂーゴ (十四日)

●日會役員會 定期日會役會員は來る十九日月曜日午後八時より日會事務所に於て開催する筈なれば役員諸氏は萬障繰合せ出席ありたし

●日會へ寄附 オケ農產商會員下川末吉氏金十弗日會へ寄附

●牧野氏入院 デルマ大農業家牧野敬藏氏は七月五日頃より急に病氣に罹り第五街アグニュー病院へ入院中なりと

●新電話 日幹小橋外史大和商會の淺川剛三、谷戶資一、花見共鳴及び支社吉峰の午後六時半後は電話メーン三六七〇なり

●藤本氏來讃 當地にありし藤本伊三郎氏は商用の爲め過日來讃しリンコルンホテルに滯在中なるが來週早く歸原の筈なりと

●隼人金融組合總會 既報の通り隼人金融組合總會は去る十一日午後六時より第四街亞州樓に於て開催されしが株主過半數以上に達するや湯田理事長より前期間の營業報告後佐藤會計より委く報告ありしが滿場一致を以つて承認し種々なる重要事項を協議散會せしは八時頃なりき因に利益配當は約一割の好成績なりと

●日幹出張 日會幹事小橋外史氏は濱野評議員同道オションサイドカラスバアド地方へ出張し登錄を執行する筈なりと

●漁船の活動 コロナアド沖に約二百隻の漁船サンピードロ方面より集合し近海にて鮪釣りに目下大活動中

フロリン (十五日)

●調查委員來る 今朝再び當地に來り農園の一部を視察したる上岩鶴日幹の案內にて美以敎會に高田牧師を訪ひ敎會の傳道狀態、信徒數、日曜學校事業及びミッション・スクールの經營等に亘り詳細なる尋問をなし轉じて佛敎會に至りしが恰かも開敎師は不在なりしかば一行は側戶より禮拜堂に入りて詳細なる觀察をなし撮影をなしたる上一行は八臺のオートを並べてスタクトンに向へり今回當地二回の踏查をなしたる時白人側にて案內をなしたるは今回委員の頭腦に刻まれたる『淋しき白人ストア』經營者なるジョンリースにして同胞の爲め最も宜しからざる人なりしは遺憾なりき因に委員は桑港に歸へりたる上美以敎會のジョンソン博士、長老派ガイ博士、組合派ヒンマン博士の三總理とも會見して詳細なる事情を聽取する筈

●通俗幻燈講演 既報の如く十七日大正區十八日フロリン美以敎會に於て開催演題は變更して『シカゴ市』なりと米國西部の門戶にして異常の發達を遂げ而も自信と冒險に富める此の大都市の活動振りを居ながらにして見物することを得べく米國美以敎會本部特製のものなりと

ルーミス (十五日)

有利の陳情聽取

▲プラサ郡實地調查 昨日午後三時中央政府の命を受けて來加せし排日調查委員一行は當地に立寄りカリホルニヤ・フルーツ・エキスチエンチに當地有力者ジエー・ジエー・ブレナン氏エス・エス・デイ氏イー・エル・リッピー氏エフ・スモール氏シー・ホール氏と會し氏等の對日本人感想を聽取致し候處孰れも口を極めて

▲日本人を賞讃し 若しプラサー郡に於て日本人を除かんか我等の農園は忽ちにして荒廢に歸すべし隣村ラクリンに於て數年前ミセス・グードの果園に或る日本人が經營せし頃盛んにフルーツを產出したるも今は某白人の所有に係かるも全部荒蕪地となり諸君の御通過せられし際之を路傍に觀られしに非ずや又最近某日本人より白人某に賣渡せし果園も前記の如き有樣なり而して我等の好む處は彼等の正直にして勤勉なるにあり

▲其正直と勤勉 とは到底他外國人の比にあらず諸君は櫻府に滯在中三街四街其他に於て白人勞働者のゴロ〳〵しつゝあるを觀るに反し其日本人街に於て一つの放浪者を見出し得しか日本人街は寂として淋しき所以は彼等は悉く田舍に赴き此收穫期に勤勉に農業に就きつゝある證據なりと諸方面より例を引て日本人を激賞し彼の排日の頭目を目して國家を誤る者と極論する者さへ有之

▲實に痛快に候 ひし尙一行は酒井氏經營のルーミス、プロデユサー會社に立寄り其營業振りを視察致し候而して四時半頃ニユーキャッスルに向はれ申候

尋人 廣島縣人 寺岡嘉助 氏に大至急用件あり同氏所在地御存知の方は下名へ御通知被下度候 布市ツラレ郡一三三六 岡山縣人會

債權者に告ぐ 元日本人病院經營者桑原泰介氏に係る債權者會を來る廿五日午後一時より佐市ジャクソン街都亭に開催可致候間必ず御出席被成下度此段廣告候也 追而不得止御缺席の向は其旨廿一日までに整理委員迄御通知被下度候 七月十三日 サンノゼ日本人病院整理委員 下川直彥

◉節入講談◉ 各地巡業口演仕るべく候に付き御贔負の程願上候 節入り講談獨創口演者 雀家正樂

葡萄 兩手早摘(安全器)ソーナイフ 新發明一名 米國專賣特許 僅金二弗郵稅四仙 片手で四通りに切れ右も左も自由自在同じに使ひますから一人で八人前の仕事が出來る譯です 羅府販賣人 佐藤德三郎 山田惣平 134 Rose St., Los Angeles, Cal.

開業三週年記念 特別大安賣 一割五分引 弊店儀過去三ケ年間顧客樣の御引立に依り益々繁榮致し候爲今月十日より向ふ十日間御厚情に對し特別大安賣致可く候間倍舊の御引立を願上候 ◉米 現金にて現價の一割五分引 麥嶺シャタック街二三九五 日本商會

グリン物買入 葡萄 ▲黑乾葡萄 ▲桃 ▲プラム以上各種 右現金又はエフ、オー、ビー何れにても高價買入御一報參上 セッチユル・フルーツ會社 日本人部買入主任 山田秀吉 Rt. A. Box 192-B Clovis, Calif.

自動車修繕並にツウィン・シーテーツラクター 格安販賣 マセド自動車修繕所 Great Highway at G. Merced, Calif.

菓子舖御披露 私事今回左記の場所にて菓子製造並に御小賣業を開始致候間御引立の程奉願上度此段及御披露候也 六月廿一日 布市カーン街一四三〇 柏屋菓子舖 古屋喜三郎

◎引延◎進呈 重富寫眞館 王府第七街三三七 電話王府七一六〇

王府マヂソン街七一六 電話レーキサイド四二四五 井手產院

同胞醫院(武田醫院跡) 王府アリス街六三六 ドクトル 梁川健雄 電話レーキサイド四六四七

公認 武田產婆 王府マデソン街一五八〇 電話レーキサイド五三一五

公認 產婆 崎山シモ 王府第六街二二四 電話レーキサイド四五三六

加州公認 橋本病院 215-6th Street Oakland, Calif. 入院隨意 大小手術及各種注射の需めに應ず 元帝國大學病院勤務 ドクトル 橋本秀治 王府第六街二二五 (電話)レーキサイド二〇九〇

公認 齒科醫師(王府) 王府第八街五一八 齒科醫學士 矢幡富藏 (電話)オークランド二九八七、八八一九

公認齒科醫 犬飼猛 王府第十五街五〇六番 プラザビルデング五〇二、五〇三 電話王府三三六〇 住宅王府八二〇七

公認齒科醫 本間修二 王府第八街四一二日本館內 電話王府六六七一、住宅第八街一〇五

イースタン洋服店 鈴木 1711 Teleg. St., Oakland Tel. Oak. 5258

加州公認 堀田產院 王府第廿街五一〇テレグラフ近 妊產婦收容設備完全 電話オークランド一六六四

日本人の支那料理 美洲樓 第八街四一五 電北京一一四 藤田

羅府 ホテル太平洋 121 S. San Pedro St., L.A. 山本產太郎

食料雜貨 灣東商會 電話王府一二〇二 及王府七九六

▼病者の福音 ◉調劑確實 ◉白人醫招聘 ◉日本賣藥 ◉書籍雜誌類 加州公認 濱井回春堂藥店 櫻府第三街千二百〇六番 KAISHUNDO & CO. 1206 3rd St., Sacramento, Calif.

僂麻質斯の病害を捜し出すべし ●病氣の原因ご其療法を考へよ 僂麻質斯とは何ぞや、今に其原因を見ず [illegible] S.S.S.は血液中より [illegible] れば僂麻質斯に特 [illegible] 越大鎮療法注意を [illegible] (八) Chief Medical Adviser, 602 Swift Laboratory, Atlanta, Ga.

◉引延◉進呈 駒井寫眞館 王府第六街三二一 電王府二二六三

アート・クラフト寫眞館 王府十三街四六七 電話王府一二二二 幸若牙須 福井久太郎

羅府 羅府支社 北サンピドロ街一二八 電話一六六五七八

公認產婆 平野秀子 羅府東二街三二五 フエドラホテル 電六五一三七

醫師 須々木榮 東一街三三一半 電話一五〇五九 自宅一九一五四

寶石類 貴金屬 小川時計店 羅府東一街二四五 電話一二八九〇

ドクトル 渡邊準哉 羅府イーグルホテル 電話一三八四二 自宅二五九六八

高等御食事所 川福 羅府ウエリングトン街一〇九半 電話一五八五七

齋藤齒科醫院 東一街六〇六半(南海屋內) 電六六七二〇

月藤齒科醫院 東第一街三二四五 電話一一四二三

產婦人科內外科 古澤醫院 醫學士 古澤 羅府ウエリントン街一一七 電話六六三五六

モネタ原醫院

加州公認 產婆 日本內務省免許 佐藤琴子 パサデナ市西グリン街三一〇 電話フエヤオークス二三六二

ドクトル 平田篤次 羅府エクイテブル銀行三階 電話六四九〇四 自宅七七〇六四

小林診察所 羅府南サンピードロ街一一五半 電話壹壹壹二

△中加產業社の營業種目 土地賣買、クラップ賣買、借地、一般農具取次、勞働契約、諸種保險、通辯事務、契約書作製、法律事務 中加產業社 CENTRAL CALIF. INVESTMENT CO. 1507 Kern St. Fresno, California. Phone 5233 布市カーン街一五〇七 電話五二三三

公認 倉田齒科醫院 東第四街四五九番 ドクトル 宮田雄次郎 ミカドホテル內 電話六一四一六 アロードウェー二九六

南加日本病院 Tel. 15427 605 Turner St., L.A.

醫學博士 唐木保藏 電話一三一一八 一四〇〇三 317½ E. First St., L.A. Calif.

紐育生命 公認代理 松永多平 424½ E. 7th St., L.A. Calif.

深澤齒科醫院 338½ E. First St. Tel. A3178

大正ホテル 羅府北サンピードロ街一二八 電話ホーム壹壹五壹六

布市支社 布市エフ街九四九 電話三〇九四セ

加州公認 三浦產院 布市イ街一〇二五 電話三八二四エム 私事先般來產室並に浴室等を新たに設け從前通り自動車をも備附け皆樣方の御滿足を得る樣相努め申候

日本內務省免許 三浦チサ子

株式會社 布市勸業銀行 ▲正金銀行預送金は滊船出帆前三日までに御申込が確かです ▲保管箱貸料は一ケ年三弗以上 ▲ケ年は四分 小口當座通帳無利息 ▲定期一 日本送金一百弗以上無手數料

內務省免許 加州公認 產婆 江田鈴野 江田產院 布市イ街五六二 電話四〇七八J 自動車の備附あり

公認 倉谷鍼灸治療所 布市エフ街一〇三一 電話一九五三W

株式會社 フレスノ病院 ドクトルメロシン 村山三十五郎 村尾鍊志 布市イー街九三五 電話メーン二二一三

フレスノ 小此木病院 735 F St. Fresno Calif. Tel. Main 1339

CC農產會社 C. C. PRODUCE CO. 1226 Tulare St., Fresno, Cal. Phone 4942 農產物ホールーセル委托販賣

布市 部谷書店 922 F St., Fresno, Cal.

松本兄弟書店 1535 Kern St., Fresno, Cal.

M&T 日本人間唯一の家具店 家具店 布市シー街八五一 電話一八四七 二五九六

フレスノ公認齒科醫 關直太郎 ツラレ街一四三一 ウエスタンホテル

白山紀一 カーン街一四三五

內務省免許 木村幸太郎

別府溫泉 湯の花 自宅溫泉 入浴原料 羅府東二街三〇五 Daikokuya 305 E. 2nd St., L.A. Cal. 大黑商會

篠原眼科醫院 107½ East 1st St. L.A. Calif. Telephon 15745 Res. 65137

セントラル魚市場 CENTRAL FISH CO. P.O. Box 516 San Pedro, Cal. サンピドロ港 電話八三四

養老保險 小野助四郎 ニューヨーク生命保險 本部公認代理 623 Maple Ave., Los Angeles, Cal.

溫泉 P. O. Box 975 San Pedro, Calif.

Sato's Book Store 341½ E. First St., Los Angeles, Cal. 新刊書籍到着 東一街三百四十一半 佐藤書店 電話一九六〇九 住六一八一二

太平洋沿岸魚市場 Pacific Coast Fish Co., P. O. Box 285 San Pedro, Cal. サンピドロ港 電話九〇七

サクラメント（十六日）

少年土地所有 説明書を

▲調査委員長に送る

過日開催せる日本人問題の調査委員會にてフロリンのランズボロー氏が日本人少年者の爲め同氏名義の形式にて土地を購入したる件を陳述せるに對し英字紙は例の如く偏頗の報道のみを掲げしことを慨し同氏は左の如き説明書を調査委員長たるアルバート・ジョンソン氏宛にて送附せりとて本紙上に其發表を希望し越せり書柬の意味は左の如し

去る十三日の調査委員會に於て余が證言の際約束せる通り茲に契約書の寫本を送附可致候前便申上げし如く日本人の事業がフロリンにて成功せることに關し委員諸氏の認識することとならば幸甚に不堪而して余は茲に證言の追加を披瀝せんと欲するものに御座候が『凡て米國に出生せる者は米國市民』にして土地所有權を有し日本人と雖も其例外ならずとは余が法律上の解釋に御座候此件は加州リバサイドに於ける判決にも徴し得べく其判決に對して未だ控訴を提起されたるを聞き及ばざる候此の法律を改訂せんには先づ合衆國の憲法を修正せざるべからざる事と被存候其德義上よりの見解は暫く措く法律行爲の適用に於て幾多の分岐あるものと被存候間假令土地購入金は其小供の父より拂ひ込まるゝものとするも余が日本人年少者の爲めに執りたる法律行爲に關して是認されんこと希望に不堪候

自動車十臺を列ね

▲調査委員不老林視察

日本人問題の中央議會調査委員一行はマデソン知事秘書官の案内にて新聞記者其他を合はせて三十名十臺の自動車に分乘して昨十五日不老林を視察したるが草間氏通辯として隨行したり先づバスケット工場を視察し日本人會に至り岩鶴幹事に質問し學校問題を高田敎師に就きて聽取し佛敎會堂にて撮影し更に附近のキャンプを巡視して須市に向ひたる由なり

▲岩鶴幹事は語る　調査委員と隨行せる某英字記者が日本人兒童に金を與へて其姿を撮影せんとし『左樣な野卑な眞似はして吳れるな』と委員の一人に戒めらる▲僕の妻が寫眞結婚花嫁だとビー紙が書いて居るが噓八百を並べる新聞だ▲委員長のジョンソン氏は聲を密めて在米日本人は米國の善良なる風俗習慣に同化し得るや否やが根本問題だから能く銘記して貰ひ度い

●日銀上半期營業報告　當市日本銀行は去る十四日上半期の營業報告を發表したるが左の如し

▲資産の部　貸付金五八二、七〇六、〇〇公債所有九八、〇九三、三三、什器九、六六三、五〇、準備金一〇二、〇八六、四九現金六〇、八八〇一、〇合計八五三、四三〇、二二▲負債　資本金一六二、〇〇〇、〇〇、當半期純利益六、五三四、一七、前期繰越金三五〇〇、〇〇總預金六六四、三九五、九五、合計八五三、四三〇、二二

●出生　當市神保商店主人神保庄三郎氏二女妙子は去る十四日小林産院にて出生母子健全

●床屋再開業　群馬縣人澁谷德次郎氏は今回再渡米し第四街千百六番に於て理髮業再開店す

●不村山口縣人會　同會の總會を十五日ブライトンの森重氏方に開き親睦會に移り盛會積立金三千〇十二弗餘との報告鍵本彌一、池田貞藏二氏入會

●入院　ヨーロー農業家福島縣加藤善内氏膽囊病にて昨日イーグル病院に入院す

スタクトン（十六日）

昨日來須の 調査委員一行

▲牛嶋氏主催晩餐會

米國中央議會の邦人狀態調査委員一行は昨十五日櫻府よりフロリンを經て正午前當市に到着直に牛島氏の案内にてスピードボートにより河下農園視察に向ひ先づ牛島氏支配の下に五千四百英加のポテート、アニオンを耕作せるマンダビル島を視察牛島氏は同島の世人の顧みざりし不毛の地なりしを開拓して如斯耕地と化せしを說明せり次に同氏の借地耕作せる六千英加にビンズ、ポテートの繁茂せるボールデン島視察同島に於るドレジヤにて食事を爲し歸途に就途中深水工事に從事中の政府用大ドレジヤを視察の上歸須せしが議員の一人アイザック・サイゼル氏は牛島氏の使用人は一部の墨國人を除くの外白人多數にして且つ彼等は滿足を以て就働せるを發見せりと談れりと

▲晚餐會　牛島氏主催の晩餐會は昨夜八時過ぎよりホテルスタクトンのホワイト室に於て開催出席者三十餘名牛島氏トストマスターとして一場の挨拶を爲し須市のチャレス・ニューメラ氏を紹介同人は熱心に歡迎の意を表し續いて各委員簡單なる演說ありたるが要するに何れも當地に於ける產業上日本人の功績は充分に認むるも米國は米國人の米國なれば一旗の下に結束するの要を力說せり尙デルタファム會社支配人ジョージ・アセルトン氏は同席上に於てデルタ開拓上に於ける日本人の功績を說明せり

▲調査開始　同一行の日本人狀態調査は今十六日午前九時半より當市上等裁判所第二號のプラレスト氏法廷に於て開催せられしが日本人會より鈴木理事長並びに遠藤幹事出席する筈なり

灣東だより

オークランド

▲桑港日會より　桑港日本人會は曩きに在米日會が聯絡各日本人會宛に發したる『證明保證事務取扱ひ心得の件』に基き一時證明保證の權を沒收されたるが以來各地日會にも影響して物議紛々たりし處王府日會の如きは先づ五ヶ條の質問を在米日會に發したるも未た神崎書記長は何らの確答をなしざらる際桑港日本人會の名に依りて意見書を各地に送附し來り灣東各日會は勿論有志者間にも配附されたり

▲堂本夫人の講話　明日曜王府獨立敎會婦人會は最近東部より歸王したる東王府堂本花園主夫人の歡迎晝餐會を開き午後二時より同夫人の東部實見談ある由

▲小崎氏の來王　東京靈南坂敎會牧師小崎氏の令息道雄氏は東部大學に於て數年修學研究の結果卒業して今回祖國に歸る途上王府獨立敎會に立寄り明日午前の禮拜說敎をなす由

▲江藤氏に對する同情　亞市の江藤商店主江藤久武氏は先月廿二日裁判に於て入獄六ケ月となりたる事は既に報じたり、同氏は平常勤勉に商買をなしゐたるに拘らず財政は常に困難を來したり友人知己は同氏の好人物なるを惜み資本を融通し來れるが今や在監中の事なれば如何ともなし難く、夫人は每日四人の子供を抱きて悲嘆に暮れつゝあり熊本縣人有志は同氏の爲めに何かの救助策を講せねばならぬとて目下奔走中の由

▲喫茶店の讓り渡し　日光商會主人西村氏は收益確實なる喫茶店を讓渡したしと（要求欄參照）

▲寄附　亞市在住丸林初太郎氏は歸國に際し亞市小學校へ金五弗寄附▲麥嶺在住橋本卯作氏は少女渡米記念として▲小田平八氏は子供の四十九日の法事として金五弗いづれも麥嶺小學校に寄附▲小田氏は同時に佛敎會へ二十五弗寄附

▲かすみ會案内　桑港のかすみ會は明十八日午後七時より鈴木氏宅に於て琴、三味線、尺八の音樂演奏會を催すにつき灣東の有志にも案内したり同好の士は出席されたしと

ワツソンビル（十三日）

●社交俱樂部例會　本月の當番幹事水戶野、神垣兩氏主催となりて來る十八日（日曜）社交俱樂部例會としてコロリタス水源地に於て郊外園遊會を開き一日の淸遊を試みる筈來會希望者は午前十一時迄に日本人會前に參集あれたしと

●寄附金　龜谷文藏氏母親は孫二人を連れて過日歸朝されたるが記念として孫の通學しつゝありし華村幼稚園へ金五弗を寄附されたり

●出生　パハローの中地鹿松氏方に男子出生

●着米の人々　渡邊ドクター夫人は十六日桑港着の春洋丸にて渡米▲一時歸國中なりし高田善十郎氏夫人はシャトル港へ着せしよし入電ありたり▲藤本牧師嚴父は米國視察の爲め春洋丸にて着米▲病氣保養の爲め歸國中なりし高次辰夫氏夫人は健康回復春洋丸にて再渡米▲岩政幸槌氏次男も亦春洋丸にて着米されたりと

●往來　國吉氏夫妻は着米の渡邊ドクター夫人出迎の爲め出桑▲吉田氏夫人は着米の令妹に面會の爲め出桑さる

當籤番號發表

弊店儀五週年紀念として五百弗懸賞大賣出し中は多大の御引立に預り難有奉万謝候豫定の通り七月十五日日米、新世界の兩新聞社立合の上開票左記の通り當籤發表致候に付當籤者は七月卅一日迄に御來店賞品御受取相成度候但し八月一日以後は無効

壹等 一八一八	十一等 六五六六
二等 二一七九	十二等 三〇八九
三等 三一二五	十三等 六四二〇
四等 一四九六	十四等 八九九〇
五等 一三八四	十五等 四六〇
六等 一一六七	十六等 九三三〇
七等 一九五五	十七等 四五六
八等 一九六三	十八等 三五八七
九等 六七九二	十九等 六〇四六
十等 五七八五	廿等 二一八八

ローダイ　宮島商會

◎皮膚病專門男女症難全治保證　診信は總て日本文にて宜敷候　通察時間自午前十時至午後九時　醫學博士　劉日初　桑港グラント街五〇二　Dr. LOU YIT-CHO

新種發賣　品質保證　價格は各一ポウンド送料共　ほうれん草　みつ葉　千筋京菜　時無大根　天王寺蕪　小蕪　櫻島大根　練馬大根　千住大葱　直隷白菜　白茎球菜　赤丸廿日大根　瀧の川牛蒡　七〇　七〇　一、〇〇　一、〇〇　七〇　八〇　一、二〇　一、〇〇　一、五〇　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇　一、〇〇　神奈川縣朝日農場作品にて確實優等種保證付なり　小林商會　1449 Buchanan St., Tel. West 1486, San Fracinsco, Calif

桑港櫻府電氣鐵道　桑港埠頭キールートより櫻府行　櫻府より桑港行每二時間發車す　San Francisco-Sacramento R. R　Key Route Ferry, Phone Sutter 2389

火災見舞御禮　七月十一日出火の際は早速御助勢被下且つ御見舞等賜り御厚情の段難有奉深謝候一々拜趨御禮可申上筈の處尊名伺洩も有らんかと存じ乍略儀以紙上此段御禮申上候　七月十二日　ターラック　山村謙作　拜具

ポテトー　アニオン　仲買商　スタクトン　東ウエバー街三〇　ガーリントン商會　電話四五六四住宅四八六九J　W. D. GARLINGTON & CO. 30 E. Weber Ave., Stockton

櫻府支社

大和家具商會　櫻府六街一二一六エルとエムの間　電話メーン三〇六六　第四街千四百十四番　電話メーン三八六七W

加州公認　名出病院　ドクトル・メヂシン　沖田楠之進　內外科、小兒科、產婦人科　櫻府第四街一三一一　電話メーン八九七番　住宅電話メーン二九六〇W

認可　唐津病院　櫻府エム街二百廿八番　電話メーン二〇一一　手術注射入院往診治療隨時　內科皮膚病小兒科泌尿外科產婦人科眼科耳鼻科咽喉科ジアテルミ精神感療老人病科クリニカルラボレトリー　加州公認ドクトル　唐津德光

唐津病院附屬　病源研究所　健康診斷、姙娠性別、小兒智力推定、手術適否檢査、急性慢性試驗、遠方は通信應答

公認　佐藤齒科醫院　櫻府第四街一三〇八（參葉館二階）　電話三五八一ゼー　齒科醫學士　佐藤廣吉

加州公認　石井醫院　櫻府第三街一一二七　東京帝國大學醫學士　石井銀佐　電話メイン六三三

加州公認　村上病院　櫻府エム街三一四番　電話メーン三六〇五ダブリユー　▲內科▲外科▲婦人科▲肛門科▲內臟外科　元帝國大學病院在勤　ドクトル醫學士　村上利道　住宅第五街PとQとのアレー五一二半　電話架設中

朝日時計店　第四街一一一九　電話二八七三R

廣島商店　和洋食料雜貨　櫻府エム街三〇九　電話二七一〇ゼー

保險　末本　櫻府エヌ街三一〇

保險　ウエスタンステート　河本源吉　1309 4th St. Sacramento　電話メーン四〇三八M

降矢時計店　櫻府エル街日本座向側　電話メーン二八五一W

東西商會　櫻府第四街千二百十四番　電話二六六七W　吳服雜貨及食料品

吉村商店　和洋食料品　櫻府エム街四〇一　電話メーン一二三七

鍼灸採療治　內務省免許日本鍼灸研究會卒業　根立院　エヌ街四百八番

加州公認　內田醫院　▲內科▲小兒科▲外科▲眼科　獨逸ドクトル醫學士　內田賢助　須市南エルドラド街二二八　福岡屋內　電話二五九四

公認　吉田齒科醫院　櫻府第三街とエムの街角　電話メーン一三九九ゼー

西野自然療院　櫻府エル街三一七　電話四三七ゼー　住宅ゼー街四百十六

丸三商會　切花及寫眞機　櫻府第四街一二三一　電話メーン四三七七W

武田正夫　保險　櫻府エム街四三一　電話メーン五〇三〇W

いなか商店　食料品金物類　櫻府第三街千二百十五　電話メーン三六一一

櫻面都魚店　第三街一一二九　電話三五七八ゼイ

有名商會　櫻府第三街一二一八　電話メーン三一三三

みかど魚店　櫻府第三街一二一四電話三七八六　鮮魚、野菜其他罐詰類卸小賣

隆辻便利社　櫻府四街一二〇五　電話メーン三一一五W　住宅電話四六八二W

櫻府公認產院（いろは順）　岩井きよ　第三街一四一六　メーン三五八五J　蟹江嶋子　エヌ街三一四　メーン二〇二一R　山浦なつ子　第四街一四一〇　メーン三六八六W　小林ひろ子　第四街一四〇三　メーン四八三　宮崎アイ　第四街一四一八半　メーン四二一五M

麴味噌製造所　櫻府エヌ街四二七　電話二九三三ゼー

杉本事務所　土地賣買通辯事務　メリスビル市二街デー街角　電話二五一住宅東洋旅館內

崎山商店　櫻府エム街三〇一番　電話メーン三九八

松野齒科醫院　電話メイン五一七〇J　櫻府日本銀行階上　住宅第四街一二〇四

谷本商店　櫻府第四街一二二五電三六四三　和洋食料品卸小賣

紀伊商店　和洋雜貨、金物類　エム街三〇〇　電話メーン七七一

日本鳥屋　第四街一三〇七　メーン三一一W

下島寫眞館　櫻府日本銀行階上　電話メーン三一一五ゼー

吉田寫眞館　第四街一二一七A　電話四三七七ゼー

日本寫眞館　第三街一二〇六　電話三二三三ゼー

黑河寫眞館　櫻府第三街一一一五　電話メーン一二六五W

竹本ドラッグ　櫻府第三街一一二三　電メーン五二四七W

サクラ藥店　櫻府エム街三二四　電話三七八一　藥劑師吉田勝太郎

酒井藥店　櫻府第三街一一二五　電話メーン四九三一Y

イーグル病院藥店　電話二九四七R

岡山旅館　櫻府エム街四二六（五街の角）　電話メーン一五二〇

川村旅館　櫻府エム街三〇九　電話三二八八　川村伊太郎

大北館　櫻府第四街一一二六　電話三八四五R

肥後屋旅館　新居兄弟　第三街一二二二　電話三〇二八

備州ホテル　山田　府エム街三一〇　電話メーン三六六六J

日本館　櫻府第四街一一二七半　電話メーン一一一一M

西村旅館　第四街一三二四　電話二三五七W

日の本旅館　エム街三一三　メーン三〇一四

廣島旅館　櫻府日本町八　電話メーン五二四七J

靴　櫻府角座　津田商店

衛生的好飲料　スター、ソーダ水　電話メーン三一八七

ポテート、アニオン　サック各種　並にトワイン　此際大勉強を以て販賣致しますから御注文の程願います　スタクトン　東ワシントン街三三　共益會社　電話三七三

來れターロック　キャンローブ　果物　トメトは未曾有の豐作　ピースウオークは腕次第　デーウオークは高給を支拂ふ　スタニスロース郡日本人會農事部

サック　古サックもあり

各種肥料　櫻府エム街三百十二　電話メーン三八一ゼー　米問屋　井上商會

精神療法　中島施術所　サンノゼ市北第五街五六五　電話サンノゼ九一四　元日本人病院跡

▲公認電氣職　バッテリー工場　櫻府エル街四二七　電話メーン二一〇三ゼー　長尾

O.K.家具金物商店　櫻府エル街四二〇　電話メーン四六七〇（ベンター廉賣）

公認　ライオン藥店　專門醫紹介及通譯、診察室設備完全　櫻府第四街千二百二十七番　電話メーン一五六六　店主本家

櫻府　株式會社　日本銀行　第四街とエル街角　電話メーン一〇七八

早石醫院　須市南エルドラド街四〇四電九〇四住宅電話二三六三　中加州公認內外科醫　ドクトル・メヂシン　早石實藏　J. Hayaishi, M. D. 44 S. El Dorado St., Stockton, Cal.

タフトホテル　室內淸潔、設備完全　スタクトン市南センター街一二四　御來市の節は是非御投宿を願ます（電話三六四〇）　麻生德三郎

河下　友岡旅館　ウ村郵函一〇五　コートランド二九四

須市支社　東ラフエット街…八　電話三五四六

公認　岡本醫院　須市日本人會隣室（電話八五三）　▲外科▲內科▲婦人科▲小兒科　ドクトル・メヂシン　岡本力一

八千代商店　食料品、雜貨、果物商　須市センター街三〇四　電話九一五

糀賣出し　食料品雜貨商　高橋商店　電話三三九四　333 S. Center St., Stockton.

佐藤商店　食料品、雜貨類、大勉強　電話二一五五　110 W. Washington St., Stockton, Cal

須市蓄音機店　シンガー裁縫ミシン販賣　6 W. Market St., Stockton, Calif.

工藤齒科醫院　日本藥店二階　公認齒科醫學士　工藤盛勝　公認齒科醫學士　中原久一　（電話二三二五）

公認　北原產院　須市南センター街一三七　電話一一九一W

貸自動車　須市東ラフエット街一二七　せんべい製造販賣（電）二四七五　清水

質店　國井時計店　金銀寶石、時計修繕　40 E. Washington St., Stockton, Calif.

須市旅館業組合　バナマホテル　南センター街四〇七　電話四六九三　日本旅館　センター街とマーケット街角　電話七二九　豐明館　南エルドラド街一二九　電話一六二一　尾張屋ホテル　西ラフエット街一二〇　電話九九二　加州館　西ワシントン街一一二　電話一四四九　ヨセミテ　東マーケット街一二二　電話二二〇八　中島ホテル　南エルドラド街一二三一　電話一六五五　南海屋　東ソノラ街一一二　電話二九〇二W　グランド　東ワシントン街二五　電話二二五四　福岡屋　南エルドラド街二二八　電話二五九四　安藝旅館　東ラフエット街二二九　電話一六九八　サンオキン　東マーケット二九　電話九四四　サツマヤ　南エルドラド三〇五　電話二二五六　紀州館　南センター街三三一　電話一〇七九　錦帶旅館　南センター街三一九　電話二九四〇W　ミカドホテル　南エルドラド街一一八　電話九五九　廣島屋　東ラフエット四六　電話三二五〇J　肥後屋　南エルドラド三二〇　電話一〇八二

公認　久世產婆　須市南マデソン街二二〇　電話二九〇三ダブリユー

江頭豆腐店　東ラフエット街二二九　Tel. 4408W

津玉商店　和洋食料品　電話八七　323 S. Center St., Stockton, Cal.

貸自動車　平榮太　須市南センター三一〇　電話一九八八

西村產院　須市南マデソン街一一九　電話二〇三三ゼー　自動車の設備あり

島田豆腐店　須市南エルドラド街三二〇　電話一〇八二

木村シンガーミシン店　須市東ラフエット街四四　電二二九五W

竹本魚店　東ワシントン街二六　電話一九五六

材木屋　シムソン、グレー　Simpson-Gray Lumber Co. 124 W. Weber Ave., Stockton　電話スタクトン二四　キャンプ用木材を格安に御需めに應じ候最も波止場に近し

花屋　加州花店（電一二四一）　7-9 N. Calif. St., Near Main

渡邊商店　質屋　時計寶石類　シンガーミシン

金物・STOVE・厨具　THE RUHL-GOODELL CO. 315-319 E. Weber Ave., Stockton.　須市南エルドラド街三三四　電話一六〇

須藤文明堂　書籍雜誌　33 E. Market St., Tel. 329

支那料理　安樂心　室內淸潔▲原料鮮良▲諸君歡迎▲宴會並出前▲電話一七六九

ローダイ　商店　電話ローダイ八五　P. O. B. 121

Valley Lumber Co.　ヴァレー材木店　▲各種材木大勉強▲日本人諸君を歡迎す　樓臺東エム街洗濯所向側

廣島屋　御旅館御料理　電話ローダイ四四　20 N. Main St., Lodi, Calif.

宮島商會　雜貨食料品商　ローダイ市北メーン街六番　電話九三

中國商會　食料雜貨　南メーン街　郵函二四五

佐市

眼科　內外科　天野醫院　佐市北第四街六一二　電話サンノゼ一〇九九　新注射、神經痛、結核其他　院長　大阪醫科大學醫學士　天野黃

榮喜洋服店　男女子供用洋服帽子其他一切　サンノゼ市ジャクソン街一八七　電話サンノゼ四二七一

華村　パーラント葬儀社　自動車使用諸事懇切取扱　イーストレーキ街三三五　電話六三二ワイ　Burland Undertaking Co.

石野寫眞館　晝夜共寫眞撮影　佐市ジャクソン街二二一　電話二五四八ジエー

木村保險事務所　ニューヨーク生命保險會社代理　サンノゼ市北第三街五五六

流るゝ雲（二二八）

寺澤琴風

魂（6）

米吉には、斯うした涙の日が幾日も續いた。

其の間に、米吉は、植物園の茶店に、お若を訪ねて、昔の思ひ出話や、浮世話をするのを、何よりの樂みとしてゐた。

うして、お若は、數年前から想ひ合つた保險會社に勤めてゐる小林といふ若い男と、夫婦になつて、自分が茶店を出して、共稼ぎをしてゐるのが、米吉には浦山敷くて、仕方がなくなつた。

『自分も、何んな貧乏暮しでも宜いから、あの方と、たつた二人で暮して見たい。あの方には菓子様といふ立派な奥様のある身體で、私は賤しい圍はれ者なんだ。世間には顔出しの出來ない、恥しい女なんだ。お若さんの方が、何んなに仕合せだか知れやしないわ。』

さう思ふと又、

『けれども、八重ちやんの事を思へば、私の方が、何んなに仕合せだか知れやしないわ。さう言へば、八重ちやんは、其の後何うなさつたらう。何遍手紙を出しても、あれつきり一本も返事を下さらないし。身體でも惡いんぢやないか知らん。』

斯んな事も考へて、自ら慰めもしたが、しつかり抱き締め得ぬ戀の空虚に、胸を絞られるやうに悲しかつた。

『媼や、綺麗に、お掃除が出來るわねわ。』

米吉は、廂縁に立つて、セッセと掃除をしてゐる媼やに、聲をかけた。

『まア、御新造様。いつお歸りでございました。今朝は大變早いお歸りでございませんか。』

『ねえ、いつものお若さんがゐなかつたものですから。』

『さうでしたか、御新造様は大層、あのお茶屋の若いお主婦さんと、お話しが合ふと見えますねね。』

『ねえ、私の元、知つた家の方ですから。』

『其うですか。では、やつぱり彼地の方の……。』

米吉の顔が、ポッと赤くなつたのを、素早く見て取つた媼やは、急に氣を變へて、

『御新造様、御覽なさい。桔梗の芽が、斯んなに伸びて。』

と言つてニッコリした。

『まア、其れが桔梗の芽なんですか。あの紫の花が咲く。』

『さうなんですの。大事に致しませうねね。』

『ねえ、けれど、私其の花の咲く時分まで、此家に居るか、何うか、解らないわ。』

米吉の目は水の底でも潜つて來たやうな冷やかさがあつた。

媼やは、少し顔の色を曇らせて、縁側へ來て、腰を掛け、米吉の顔を覗き込むやうに見た。

『御新造様。貴女は此の頃、大變鬱いでゐらつしやいますが、もしや旦那様の御心配ではございませんか。』

『…………。』

『若し、さうでしたら、私にお話し下さいませ。私見たいな者でも、斯うした御縁で、御奉公に上つて見れば、何處々々までも、御新造様のお味方を申し上げて、此の媼やで、出來るだけの骨は折ります。御遠慮なしにさう仰言やつて下さいまし。實は、私にも、恰度貴女様位の娘がございましたが、不孝者で、家出してしまひまして……。』

さう言つて、媼やは、急に語尾を顫はして、袖口で涙を拭いた。

『まア媼や、私始めて伺ふんですが、さうですか。媼やに娘さんがお有りなんですか。そして媼やの郷里は越後だつたわねね。』

『へえ。左様でございます。』

米吉は、輕く首を捻つて、考へ顔をした。

日蔭に暮らす　漆間つぎ子

（二）訪問の記

山田憲の夫人であつたつぎ子さんのことについても世評は區々で、何處までが事實であり、どれが正しい批評であるか、判斷に苦しみます。『一度お眼にかゝつて話して見たい』といふ希望を、あの事件の當時から私は持つておりました。その希望がやつと思ひで叶つて、つぎ子さんにも、その父君にも直接お眼にかゝることができたことを心から嬉しく思ひます。私と同じ思ひの皆樣の前にこの訪問記をありのまゝお眼にかけることができたことも、私にとつて大きな喜びでなければなりません。

▲つぎ子か否か　疑問の美人▼

五月二十一日朝、この大きい希望を持つて私は東京驛から特別急行列車に乗りました。東京と大阪との往復によく乗つたこの汽車に、この日は今までにない緊張した氣分で乘りました。沼津といふ驛に降りたのも初めてゞした、驛から漆間邸まではさして遠くもなく、俥屋はたゞ『漆間さん』とだけでよく承知してをりました。想像したよりは田舍らしい町を通つてまゐりました。富山縣の豪家であつて前代議士であつたといふだけに、質素ではあるが、立派な邸宅でした、門を入ると、青葉をつけた木の梢から、もう蟬の聲が耳につきました。右手に見ゆる洋館は何れも窓が締まつてゐるので正面の玄關から案内を乞ひますと、十五六の可愛い女中さんが紺絣に赤の勝つた友仙メリンスの帶をお太鼓に結んで出て來ました。私は増田社長からの紹介状に私の名刺を添へて女中さんの手に渡しました。廣い玄關に立つて待つてゐるその短い間が私には千秋の思ひでありました暫らくして出て來た前の女中さんは、『只今旦那様はお留守でございますけれど、どうぞお上り下さいませ』といつて、廊下を隔てた客間に通されました。

一口噺

凸坊『横綱や大關の角力は十回も廿回も待つたをするネ』ヘボ將棋『少いナア己なんか一勝負に卅回位待つたをする』

甲『機關車が溝の中へ落ちたさうだが小さな機關車だネ』乙『イヤ大きな溝だネ』

俚謠正調

◎歌の表に涙の裏を、思ひ更かせばほとゝぎす

◎君の手紙の水莖うれし、なんと返事を燕子花

◎ぐいと一口飲む劇藥が、咽喉を通れば不如歸

◎袷姿と更りし妻に、何處へ行くかと聞いて見る

◎花の王でも地に咲く牡丹、軈て崩るゝ二十日草

◎家ぢや女房が鹽斷茶斷、念も入りましよ化粧立

◎落す命をあの浮雲に、とつて掛けたか杜鵑

日本病院　Tel. Fillmore 2004　1811 Pine St., S. F. Cal.
内科、産婦人科　ドクトル　櫻井菊三
小兒科、耳鼻咽喉科　ドクトル　春田忠藏
外科皮膚科　ドクトル　黑澤格三郎
常に大小手術の準備あり
桑港パイン街一八一一　電話フキルモア二〇〇四
往診、宅診　入院隨時

帝國病院　1629 Post St., S. F.
入院隨意
醫學博士　顧問　渡邊恭禮
主任　ドクトル　伊津野房一郎
桑港ポスト街一六二九　電話ウエスト七二六二

中央病院
内科、小兒科　眼科、皮膚科
血液、胃液尿、糞便の顯微鏡的化學的檢査に應ず
桑港ブッシユ街一九三六（ラグナ街ブキヤナン街ノ間　舊竹岡病院）
醫學士　渡邊悦藏
電話フキルモア一八四九
診察時間　午前十時より午後八時迄　但し急患は此限りに非ず

北河醫院　1552 Buchanan St.（北米アパートメント）
公認醫院開業
スタンフオード醫科大學出身　パチエラー、オブ、アート　ドクトル、オブ、メジシン
元レーン病院助醫　北河慶次郎
診察　平日午後一時より六時まで　日曜午前九時より十時迄
時間
電話フキルモア五二八八

桑港公認齒科醫師（いろは順）
井戸本保之助　桑港ゲリー街一五二六　フイルモア七九二
林德太郎　桑港ポスト街一七七六　フイルモア一四二〇九
小川榮一　桑港ブキヤナン街一七三九　フイルモア一九一〇
田中敏太郎　桑港ポスト街一五三〇　ウエスト六八四
山本辰雄　桑港ブキヤナン街一五六八　フイルモア一二六八
谷田部保　桑港ブキヤナン街一六四五　ウエスト五二八二
藤田省三　桑港サター街一八七七　ウエスト八三五〇
木暮篤太郎　桑港ポスト街一六五四（五車堂二階）　フキルモア一二六〇
檜垣益一　桑港ポスト街一六六二　ウエスト二四八四

加州齒科醫師會

公認發賣　桑港賣藥會社
通信販賣●特價大賣出し◎有効無比
特製　胃病の妙藥　▲胃痛、胃カタル、消化不良、食慾缺乏、むね焼け　金七十五仙
特製　かぜ熱妙藥　▲かぜ熱、たんせき、氣管枝カタル其他の呼吸器病　金七十五仙
特製　くだり止め妙藥　▲過度、不良の飲食、寢冷又は其他傳染病等の下痢　金一弗
特製　皮膚病妙藥　▲たむし、白くも、いんきん、ひぜん、水がさ等のカユガリ　金二弗
特製　痔病の妙藥　▲肛門内のカユミ、痛み、熱、いぼ痔、あな痔、さけ痔　金一弗
特製　婦人病妙藥　▲婦人血の道不順さまざま、頭痛のぼせ、目まひ　金三弗
特製　鼻のくすり　▲鼻の乾燥、ふさぎ、カユキ、鼻汁、でき物、充血　金一弗
特製　頭髮養毛妙藥　▲頭髮の脱毛とフケを防ぎ毛の發育と光澤を良くす　金一弗
ヒユーマン　パワー錠　▲神經衰弱、男女老衰、機能不嘔、貧血、精力減退　金二弗五十仙
◎注意‖右の外如何なる種類の藥にても調達致すべく又患者諸君の病狀により專門醫師の鑑定により適藥を受くる通信投藥治療の便法あり病狀委しく御通知あれ
THE S. F. BAIYAKU KAISHA (Distributed by K. S. Suzuki's Office) 1731 Buchanan St., San Francisco, Calif.

新茶　着荷　特價一斤金二弗　送料無料
御菓子　鑵入銘茶各種
桑港ポスト街一六九九　御菓子司　松屋　電話ウエスト五三六六

公認産婆　村山なみゑ　桑港ポスト街一六二四　電話フキルモア一七六一
許産婆　倉本ひな　桑港ブッシユ街一九〇七　内務省免許　電話フキルモア一九〇四
公認　小林産院　妊婦、産婦收容の設備あり　▲帝國大學産婦人科卒業内務省免許　公認産婆　小林ちか　桑港ブッシユ街一九五四　電話フイルモア三七〇七
公認　林産院　桑港ポスト街一五二八　電話ウエスト五七六八　公認産婆林イヱ

英語教授　親愛な日本人諸君の成功は實用的英語習得にあり妾は「キー」著者且十數年經驗あり懇切教授す　Miss C. RYAN, Tel. West 6125　3103 Clay St., S. F. (Near Bakre)

公認　大久保齒科醫院　桑港サター街四〇六（スタクトン角）三階　電話サター七四三六　時間午前八時より午後五時迄

フランクリン　六六　賃金低廉迅速叮嚀御用命御應

英語教授　初學者、新渡航者、婦人及年少者の爲に懇切教授す　パイン街二八一一　寺澤教館　電話フイルモア二一二〇

獨逸病院囑託通譯　高尾鶴松　桑港スタクトン街七五八　電話カーネー二四七六

公認調劑　日本ドラグストア藥局　桑港ポスト街一六九〇　電話ウエスト一八六　藥品目錄無代贈呈　NIPPON DRUG CO. 1690 Post St. San Francisco.

公認調劑　大阪藥店　郵送無料
滋養强壯　活力素　坪井博士發見　一ケ月一弗八十仙　神經衰弱、貧血、精力減退、疲病等補血の良藥
有効確實　つわり錠　米國製劑　三週分二弗　婦人姙娠時に苦しむツワリも本劑に依りて根治す
血清妙藥　青龍煙　一類七弗　二類十三弗　血清唯一の良藥にして特に二期三期の黴毒に適す
胃腸妙藥　タラコン散湯　村井孜齋發見　定價一、二〇　急性は勿論多年難治の胃腸も本劑で全治す
最新方劑　わきが妙藥　三週分一、〇〇　慢性頑固のワキガも本劑に依りて拭ふが如く治す
藥局　多年の經驗あり日白人藥劑師によりて適藥を低廉に提供す　桑港ポスト街一五九四　電話ウエスト三四七四　OSAKA YAKUTEN 1594 Post St., S. F. Calif.

◎半期棚卸
大割引‖大賣出し
◉一割より三割
▲七月一日より向一ヶ月間▼
男女洋服卸小賣　雜貨輸出入　ふく組
本店　桑港ポスト街一八六三　電話ウエスト三四四
支店　同チクスパーク一四〇　同　サター三六一八
同　横濱市本町五丁目九〇番地

American Beet Sugar Co.
時期切迫人夫募集
（勞働者諸君大歡迎）
七月二十日タツピング開始
十一月末日迄引き續く
賃金（十噸ビーツ）一弗五十仙以上（未曾有の高給）
當地本年の大根は近年稀の上出來にて耕作面積は二萬町を超ゆ從つて仕事多く賃金の高き事未曾有なり、引き續き同じ場所にて多額の金を得んとする方は取急いで御出を乞ふ
別にコンパニーにて働きを請負ふ便法もあり
南加オックスナード市
アメリカン製糖會社
日本人勞働部契約業者
668 Sayiers Road, Oxnard, Calif.
大正九年七月十日